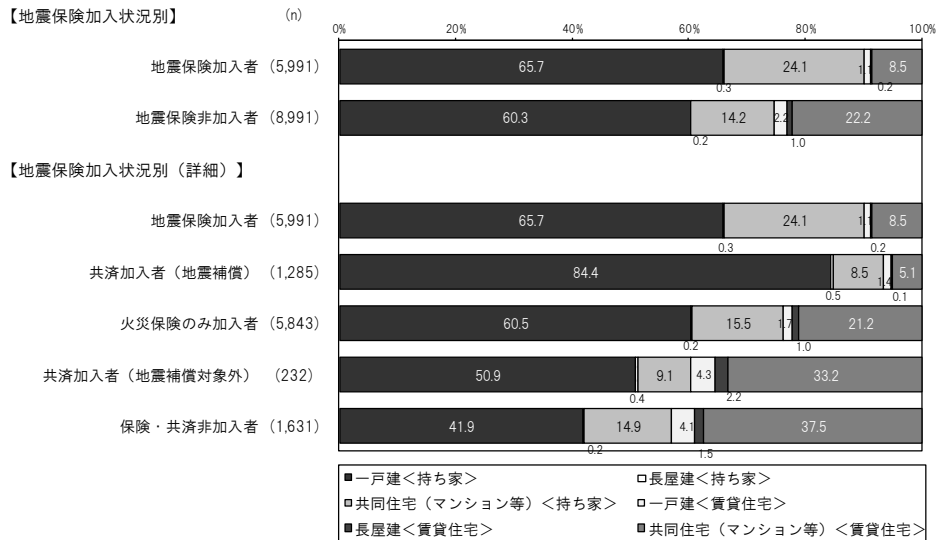


8. 住居建物の属性

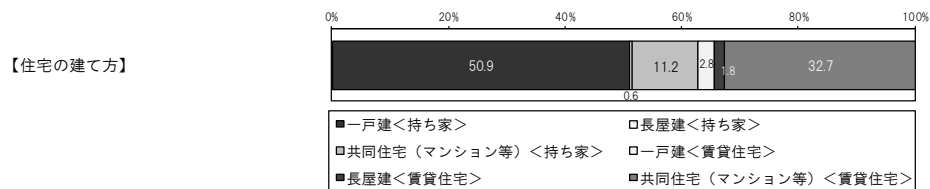
(1) 建て方

SC10. あなたの住んでいる住居建物の形態をお答えください。ただし、あなたご自身または配偶者がオーナーとして所有している賃貸物件にお住まいの場合は、〈持ち家〉としてお答えください。（ひとつだけ）



《参考》平成30年住宅・土地統計調査による住宅の建て方

*住宅の所有の関係「その他」と「不詳」を除いて集計した。



回答者の居住する住居建物の建て方をみると、地震保険加入者では「一戸建<持ち家>」が65.7%と最も高く、「共同住宅（マンション等）<持ち家>」が24.1%で次いでいる。地震保険非加入者は、「一戸建て<持ち家>」が60.3%と最も高く、「共同住宅（マンション等）<賃貸住宅>」が22.2%で次いでいる。なお、地震保険加入者は『持ち家』の比率が90.1%であるのに対し、非加入者は74.7%と、約15ポイントの差がある。

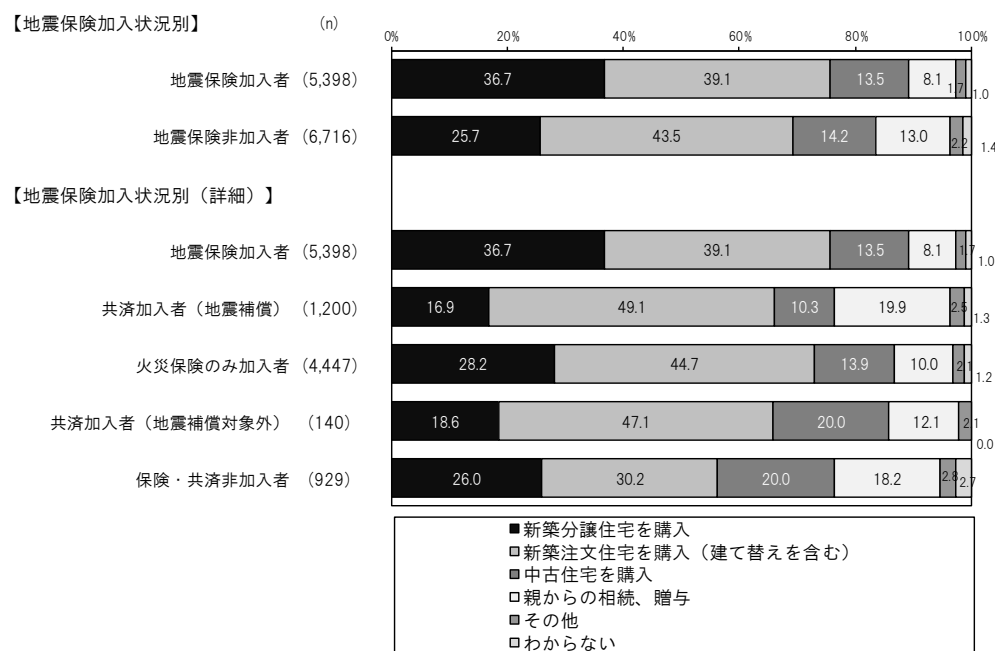
地震保険非加入者を詳細にみると、共済加入者（地震補償）では「一戸建て<持ち家>」（84.4%）が他の区分を上回る。

《参考》として、平成30年住宅・土地統計調査による住宅の建て方の構成比率を示す。本調査のサンプルの方が「一戸建<持ち家>」「共同住宅（マンション等）<持ち家>」の比率が高い。

(2) 取得方法

【SC10（建て方）で「一戸建<持ち家>」「長屋建<持ち家>」「共同住宅（マンション等）<持ち家>」と回答した人に】

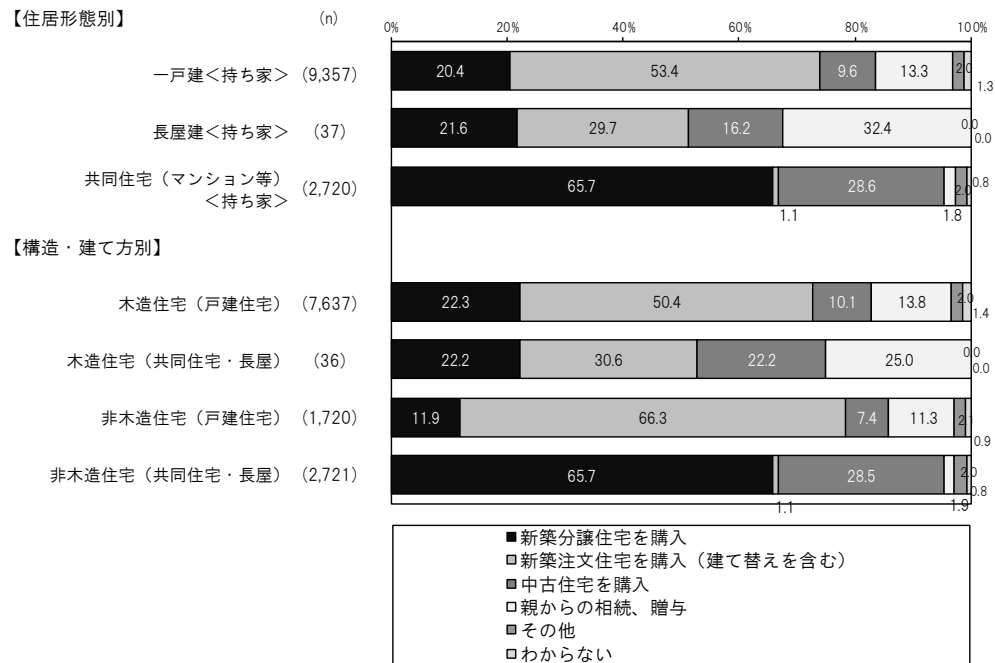
Q2. あなたの住んでいる住居建物を取得した方法をお答えください。（ひとつだけ）



『持ち家』居住者の住居建物の取得方法をみると、地震保険加入者では「新築注文住宅を購入（建て替えを含む）」が39.1%と最も高く、「新築分譲住宅を購入」が36.7%で次いでいる。地震保険非加入者においても、「新築注文住宅を購入（建て替えを含む）」が43.5%と最も高く、「新築分譲住宅を購入」が25.7%で次いでおり、この順番は同じである。

地震保険非加入者を詳細にみると、共済加入者（地震補償）と共済加入者（地震補償対象外）で「新築注文住宅を購入（建て替えを含む）」がほぼ半数を占め、他の区分をやや上回る。

《参考》住居建物の取得方法を建て方別／構造・建て方別に集計



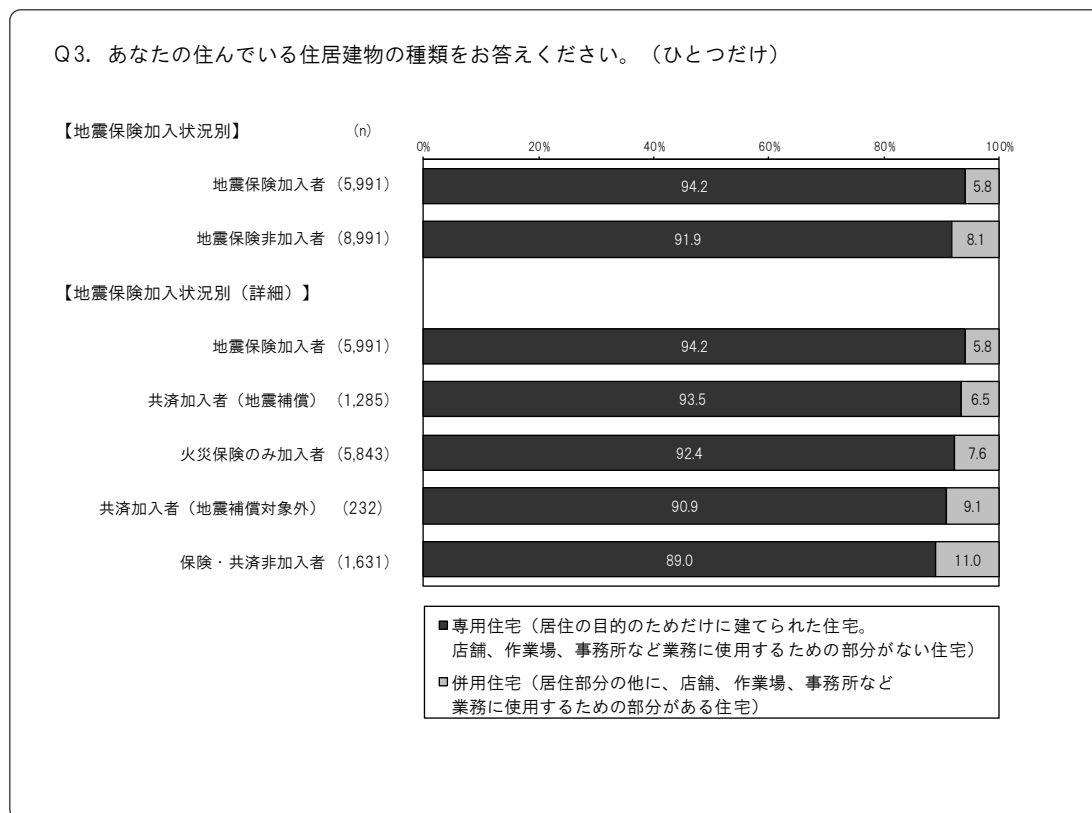
《参考》は、建て方別と構造・建て方別に集計した結果である。

建て方別にみると、一戸建は「新築注文住宅を購入 (建て替えを含む)」が53.4%と最も高く、共同住宅 (マンション等) は「新築分譲住宅を購入」が65.7%と最も高い。

構造・建て方別にみると、木造住宅 (戸建住宅) では「新築分譲住宅を購入」が22.3%であるのに対し、非木造住宅 (戸建住宅) では11.9%となっており、住宅建物の取得方法に差がみられる。

(3) 建物の種類（用途）

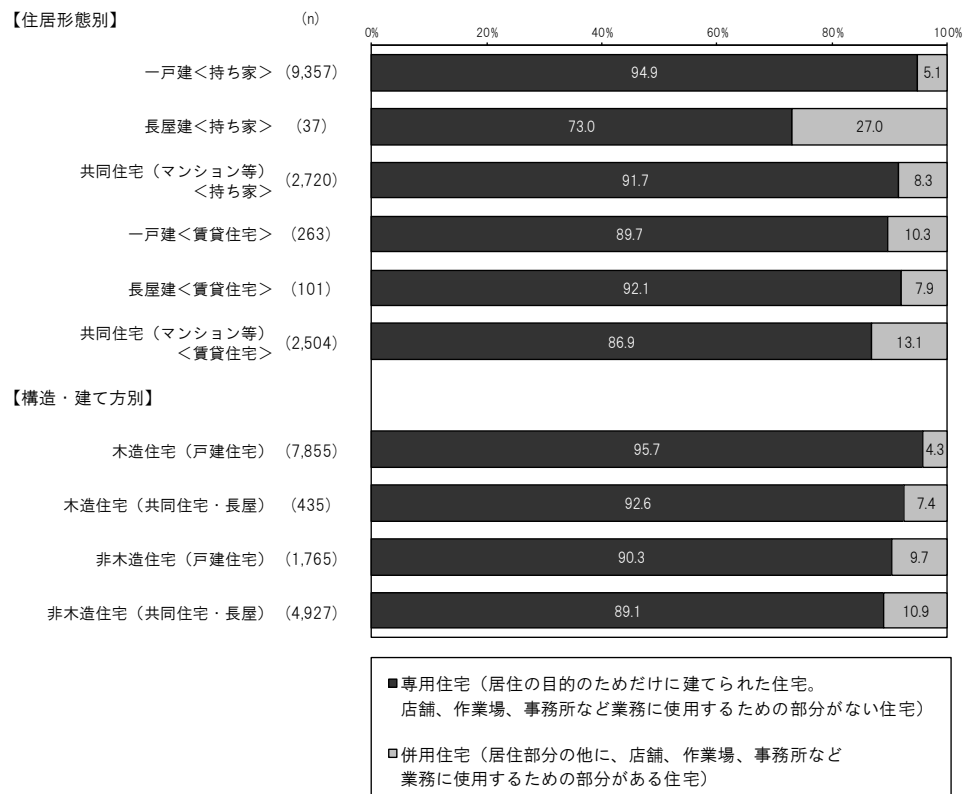
①専用住宅・併用住宅の別



住居建物の種類（用途）をみると、地震保険加入者・非加入者ともに「専用住宅」の比率が9割以上を占める。

地震保険非加入者を詳細にみると、保険・共済非加入者では「併用住宅」の比率が11.0%となっており、他の区分をやや上回る。

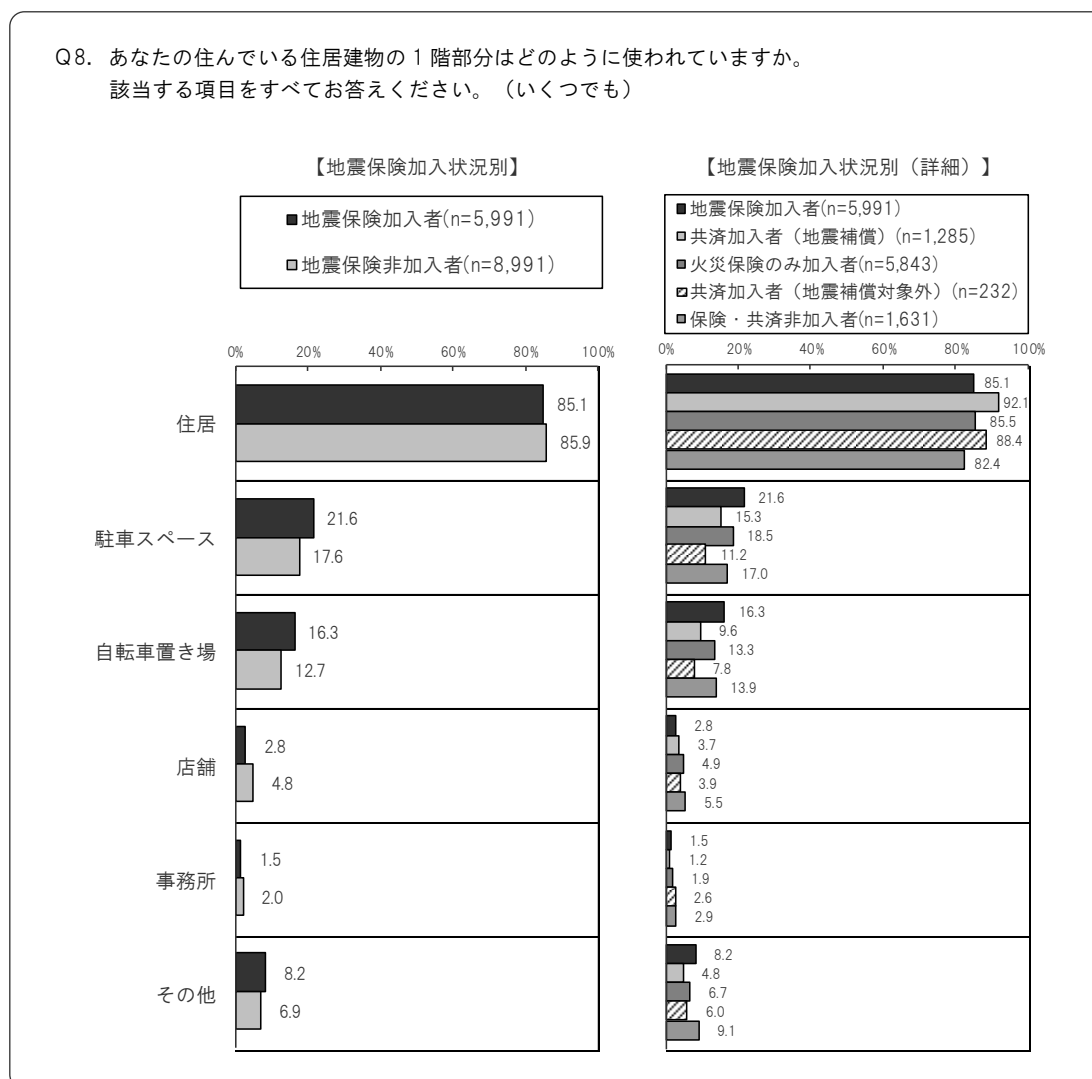
《参考》住居建物の種類を建て方別／構造・建て方別に集計



《参考》は、建て方別と構造・建て方別に集計した結果である。長屋建<持ち家>の「併用住宅」の比率が27.0%と、他の区分より高い。

②建物の1階部分の使われ方

Q8. あなたの住んでいる住居建物の1階部分はどのように使われていますか。
該当する項目をすべてお答えください。(いくつでも)

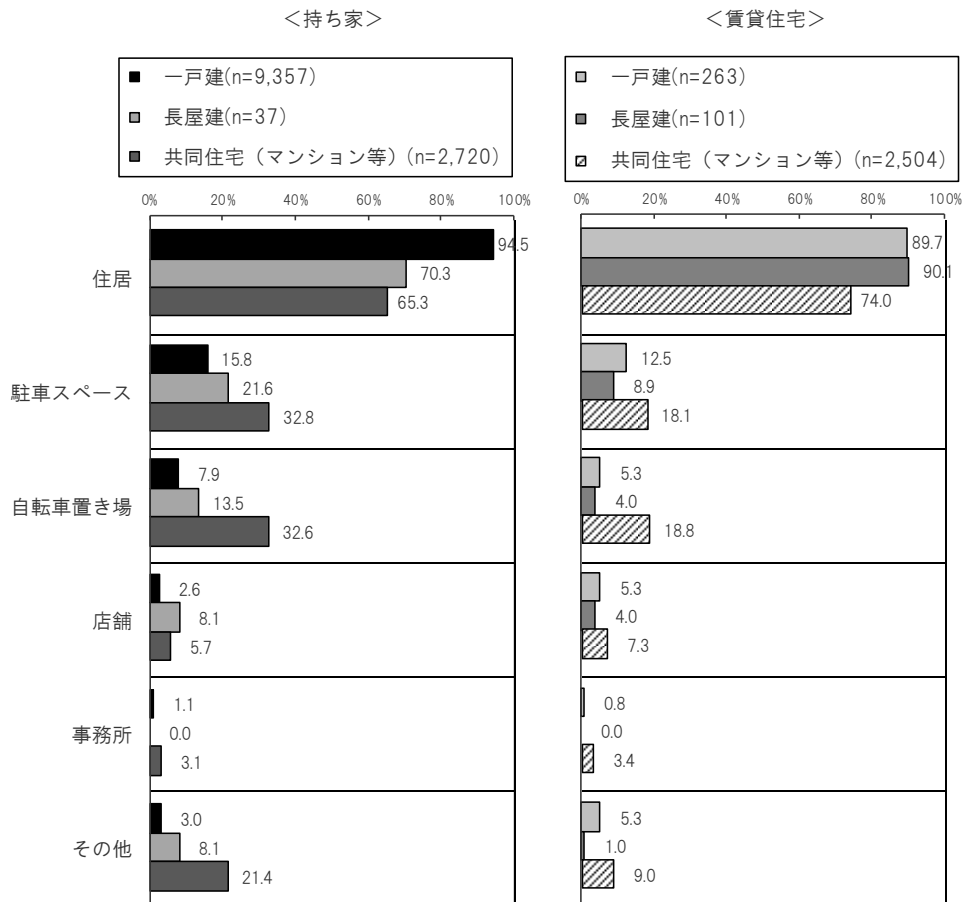


住居建物の1階部分の使われ方をみると、地震保険加入者・非加入者ともに「住居」の比率が8割台半ばで最も高く、以下、「駐車スペース」、「自転車置き場」と続く。

地震保険非加入者を詳細にみると、いずれの区分においても「住居」が8割以上を占める。

《参考》建物1階部分の使われ方を建て方別に集計

【住居形態別】

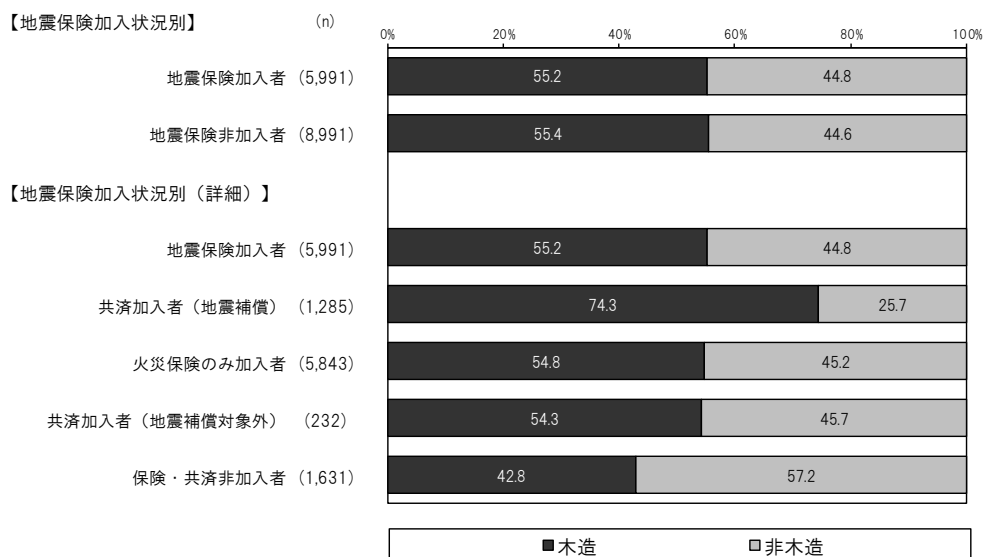


《参考》は、建て方別に集計した結果である。いずれにおいても「住居」の比率が最も高い。共同住宅（マンション等）＜持ち家＞では、「駐車スペース」（32.8%）や「自転車置き場」（32.6%）が他の区分を上回る。

(4) 構造

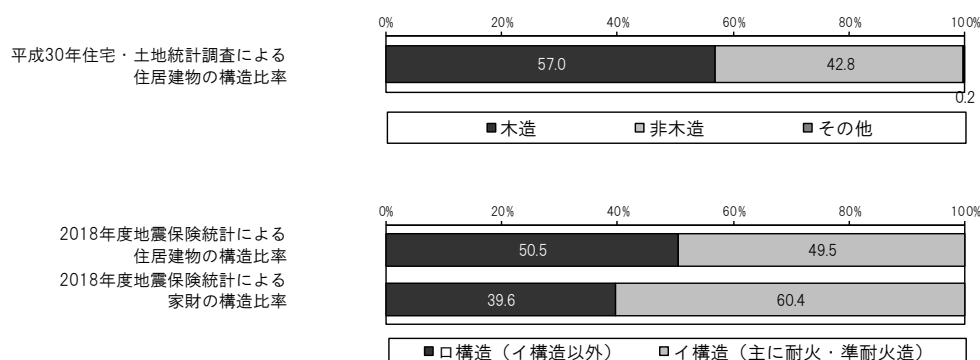
①建物の主な構造

SC11. あなたの住んでいる住居建物の主な構造をお答えください。(ひとつだけ)
(2つ以上の構造から成る場合は、床面積の広い方の構造をお答えください。)



* 「木造」はアンケート回答における「在来工法」「木質プレハブ造」「ツーバイフォー、ツーバイシックス、ツーバイエイト (枠組壁工法)」「木造 (詳細はわからない)」の合計、「非木造」は「鉄骨造、鉄骨プレハブ造」「鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造」「非木造 (詳細はわからない)」の合計

《参考》平成30年住宅・土地統計調査および2018年度地震保険統計による住居建物の構造



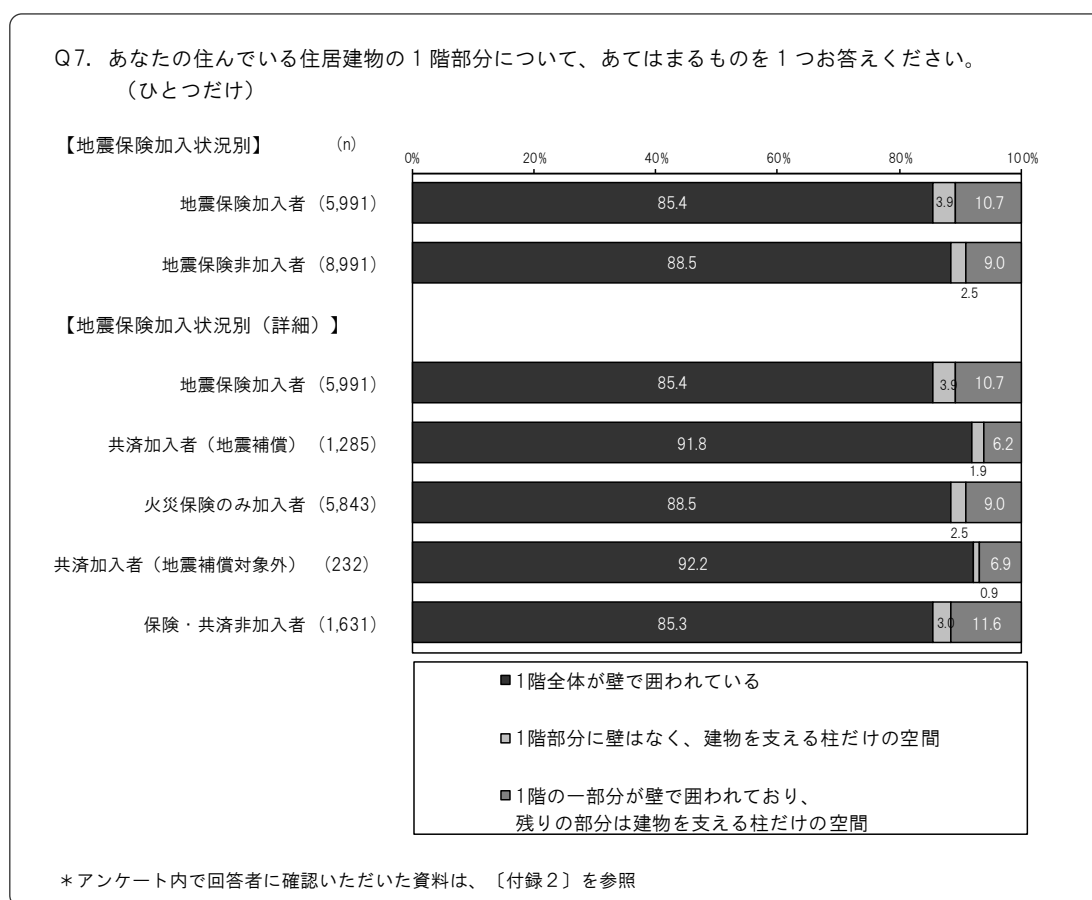
住居建物の主な構造をみると、地震保険加入者・非加入者ともに「木造」の比率が5割台半ばとなっている。

地震保険非加入者を詳細にみると、共済加入者 (地震補償) では「木造」の比率が74.3%となっており、他の区分を大きく上回る。一方、保険・共済非加入者では「非木造」の比率が57.2%となっており、他の区分を大きく上回る。

《参考》として、平成30年住宅・土地統計調査による住居建物の構造比率、および2018年度地震保険統計による住居建物と家財の構造比率を示す。

住宅・土地統計調査における住居建物の構造区分をみると、「木造」が57.0%で、本調査結果における地震保険加入者・非加入者の「木造」の比率とほぼ同傾向となっている。地震保険統計の構造比率をみると、「ロ構造（イ構造以外）」（※イ構造：主に耐火・準耐火造）は50.5%となっている。

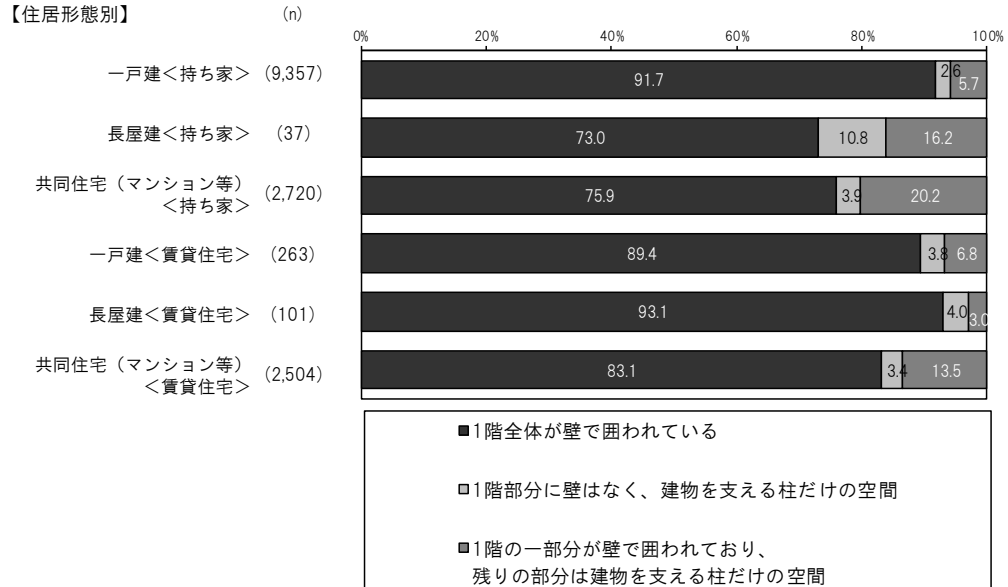
②建物の1階部分の構造



住居建物の1階部分の構造をみると、地震保険加入者・非加入者ともに「1階全体が壁で囲われている」の比率が8割以上を占める。

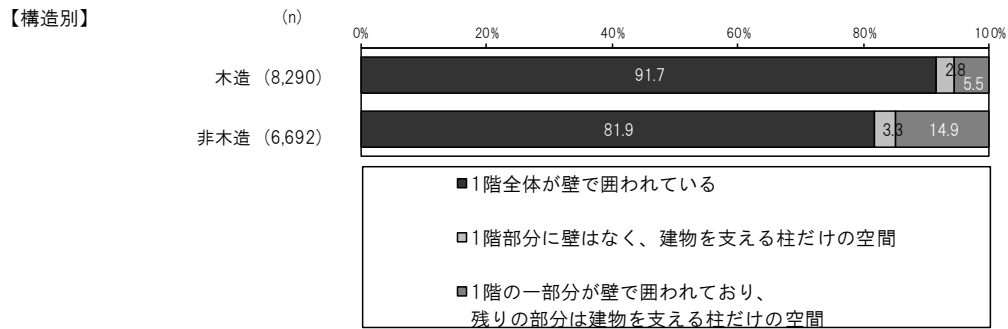
地震保険非加入者を詳細にみると、保険・共済非加入者では「1階の一部分が壁で囲われており、残りの部分は建物を支える柱だけの空間」が11.6%となっており、他の区分をやや上回る。

《参考1》建物1階部分の構造を住居形態別に集計



《参考1》は、建て方別に集計した結果である。一戸建と長屋建<賃貸住宅>では「1階全体が壁で囲われている」の比率が約9割を占め、他の区分を上回る。

《参考2》建物1階部分の構造を住居建物の構造別に集計

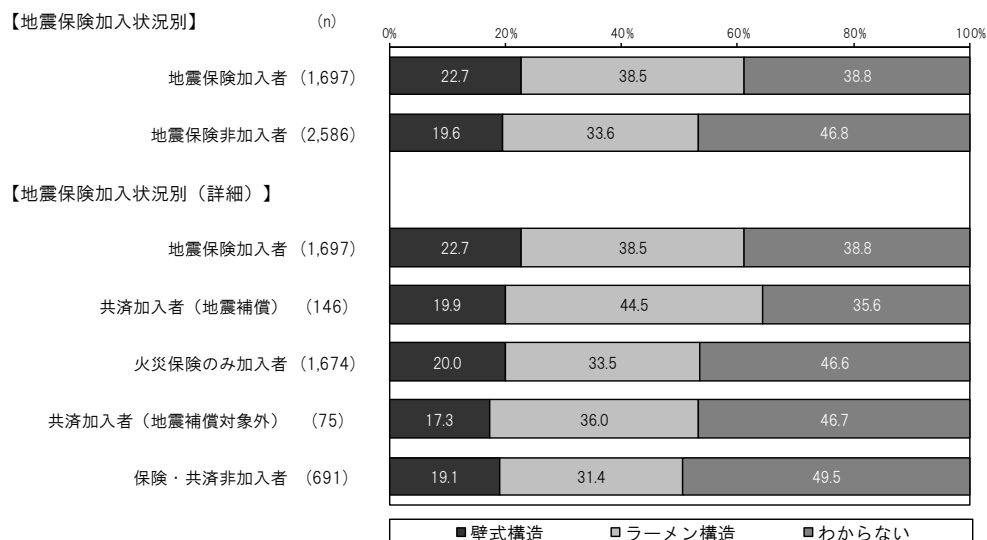


《参考2》は、住居建物の構造別に集計した結果である。「1階全体が壁で囲われている」の比率は、木造が91.7%、非木造が81.9%で、約10ポイントの差がある。

③ 共同住宅（マンション等）の構造形式

【SC10（建て方）で「共同住宅（マンション等）＜持ち家＞」「共同住宅（マンション等）＜賃貸住宅＞」と回答した人のうち、SC11（構造）で「鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造」と回答した人に】

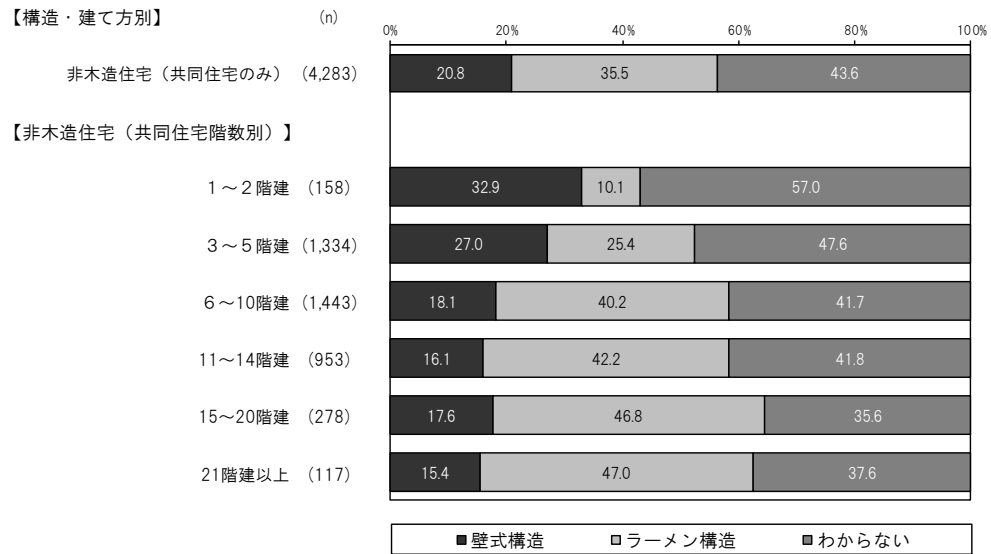
Q11. あなたの住んでいる共同住宅（鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造）の構造形式をお答えください。（ひとつだけ）



* アンケート内で回答者に確認いただいた資料は、【付録2】を参照

住居建物の構造が「鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造」の『共同住宅』居住者について、その構造形式をみると、地震保険加入者・非加入者ともに「わからない」の比率が最も高い（地震保険加入者 38.8%、非加入者 46.8%）。また、地震保険加入者・非加入者ともに「ラーメン構造」の方が「壁式構造」よりも多い。

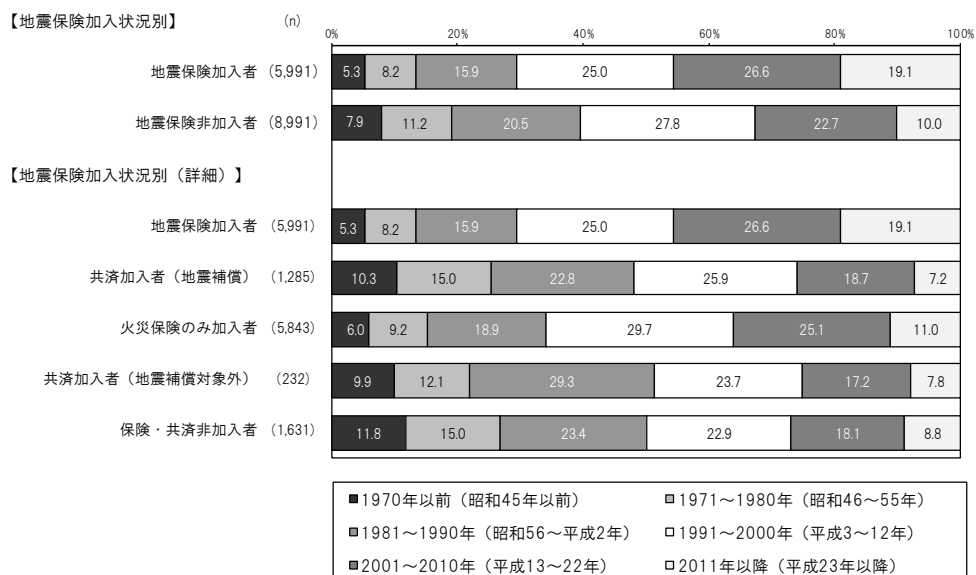
《参考》共同住宅建物の構造形式を住居建物の階数別に集計



《参考》は、共同住宅（マンション等）の構造形式を階数別に集計した結果である。階数が高い住宅になるほど、「ラーメン構造」の比率が高くなる傾向がみられる。

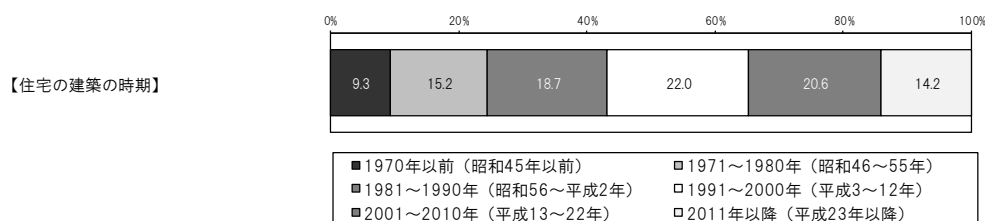
(5) 建築時期

SC12. あなたの住んでいる住居建物の建築時期をお答えください。(ひとつだけ)



《参考》平成30年住宅・土地統計調査による住宅の建築の時期

*住宅の建築時期の「不詳」を除いて集計した。

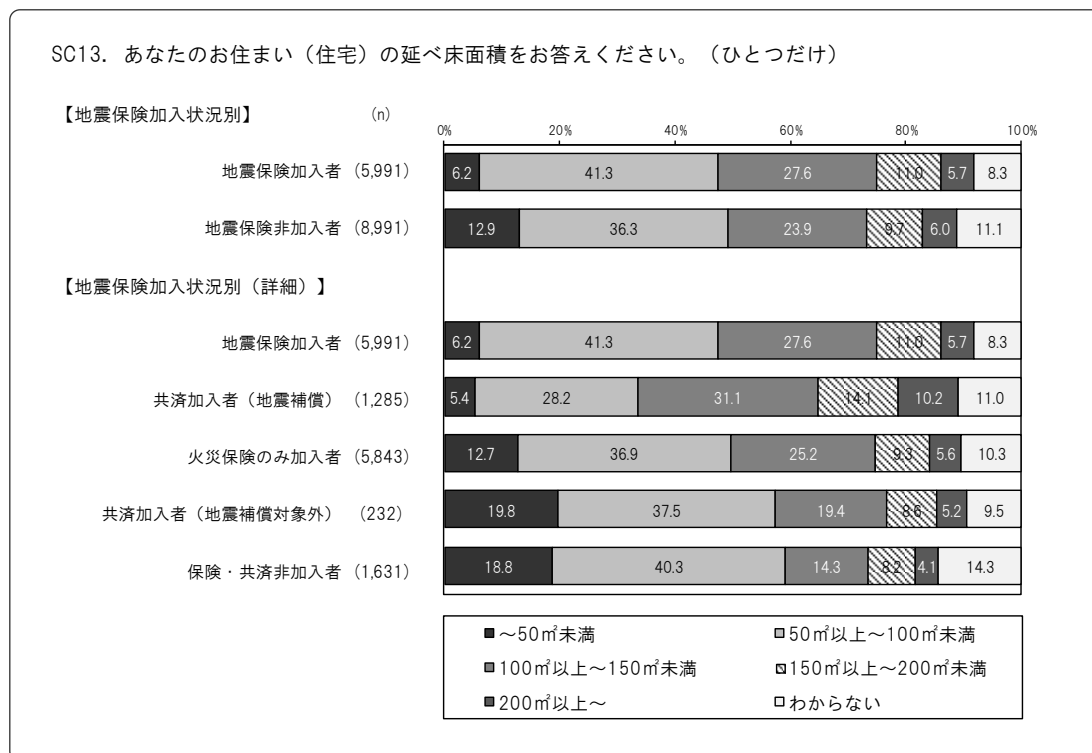


住居建物の建築時期をみると、地震保険加入者では「2001~2010年」と「2011年以降」を合わせた『2001年以降』が45.7% (=26.6%+19.1%) であるのに対し、非加入者では32.7% (=22.7%+10.0%) となっており、約13ポイントの差がある。

地震保険非加入者を詳細にみると、火災保険のみ加入者では「2001~2010年」が25.1% となっており、他の区分より高い。

《参考》に、平成30年住宅・土地統計調査による建築時期の構成比率を示す。住宅・土地統計調査では、『2001年以降』は34.8% (=20.6%+14.2%) となっている。

(6) 延べ床面積

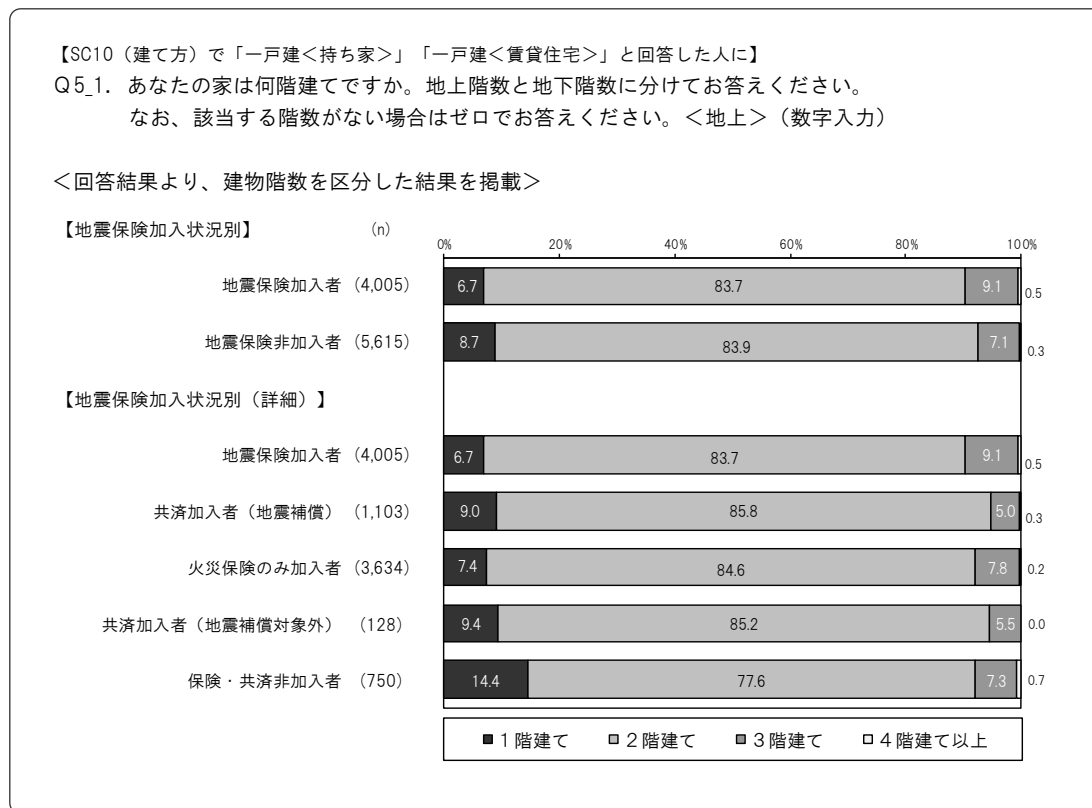


住居建物の延べ床面積をみると、地震保険加入者は「50㎡以上~100㎡未満」が41.3%と最も高く、「100㎡以上~150㎡未満」が27.6%で次いでいる。非加入者においても「50㎡以上~100㎡未満」（36.3%）が最も高く、「100㎡以上~150㎡未満」が23.9%で次いでいる。

地震保険非加入者を詳細にみると、共済加入者（地震補償）では「100㎡以上~150㎡未満」が31.1%と最も高く、他の区分を上回る。一方、保険・共済非加入者では、「50㎡以上~100㎡未満」が40.3%と最も高く、他の区分を上回る。

(7) 階数

①一戸建の地上階数



『一戸建』の地上階数をみると、地震保険加入者・非加入者ともに「2階建て」の比率が最も高く、8割超を占める。地震保険非加入者について詳細にみても、各区分で大きな差はない。

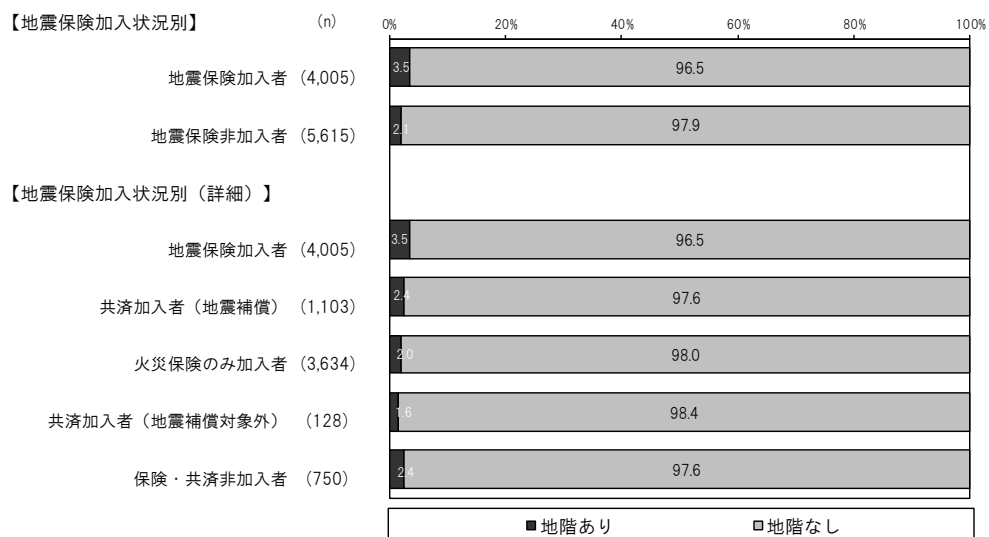
②一戸建の地階の有無

【SC10（建て方）で「一戸建<持ち家>」「一戸建<賃貸住宅>」と回答した人に】

Q5_2. あなたの家は何階建てですか。地上階数と地下階数に分けてお答えください。

なお、該当する階数がない場合はゼロでお答えください。<地下>（数字入力）

<回答結果より、地下階数の有無を区分した結果を掲載>



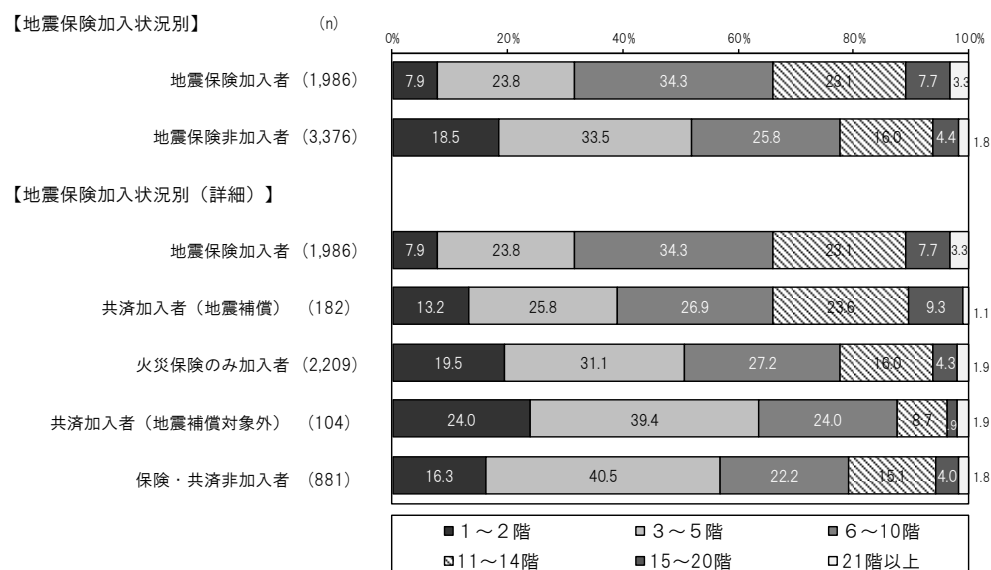
『一戸建』の地階の有無をみると、地震保険加入者・非加入者ともに「地階なし」が約97%を占める。地震保険非加入者について詳細にみても、各区分で大きな差はない。

③共同住宅・長屋建の地上階数

【SC10（建て方）で「長屋建＜持ち家＞」「共同住宅（マンション等）＜持ち家＞」「長屋建＜賃貸住宅＞」「共同住宅（マンション等）＜賃貸住宅＞」と回答した人に】

Q4_1. あなたは何階建ての建物の何階にお住まいですか。地上階数と地下階数に分けてお答えください。また、該当する階数がない場合はゼロでお答えください。＜地上＞（数字入力）

＜回答結果より、建物階数を区分した結果を掲載＞



『共同住宅・長屋建』の地上階数をみると、地震保険加入者では「6～10階」が34.3%と最も高い。一方、地震保険非加入者では「3～5階」が33.5%と最も高い。また、「1～2階」の比率は、地震保険加入者が7.9%、非加入者が18.5%で、約11ポイントの差がある。

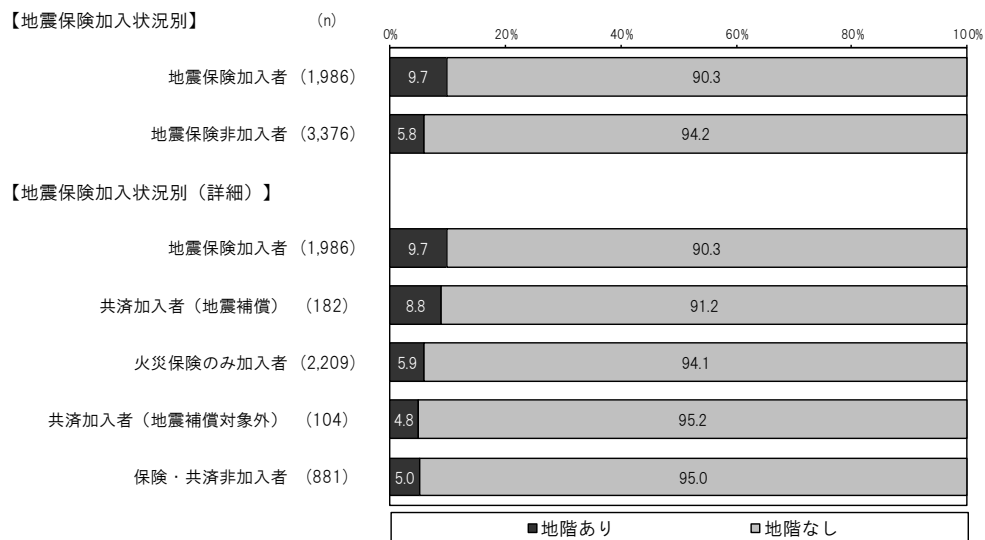
地震保険非加入者を詳細にみると、共済加入者（地震補償対象外）では「1～2階」が24.0%となっており、他の区分を上回る。

④共同住宅・長屋建の地階の有無

【SC10（建て方）で「長屋建＜持ち家＞」「共同住宅（マンション等）＜持ち家＞」「長屋建＜賃貸住宅＞」「共同住宅（マンション等）＜賃貸住宅＞」と回答した人に】

Q4_2. あなたは何階建ての建物の何階にお住まいですか。地上階数と地下階数に分けてお答えください。また、該当する階数がない場合はゼロでお答えください。＜地下＞（数字入力）

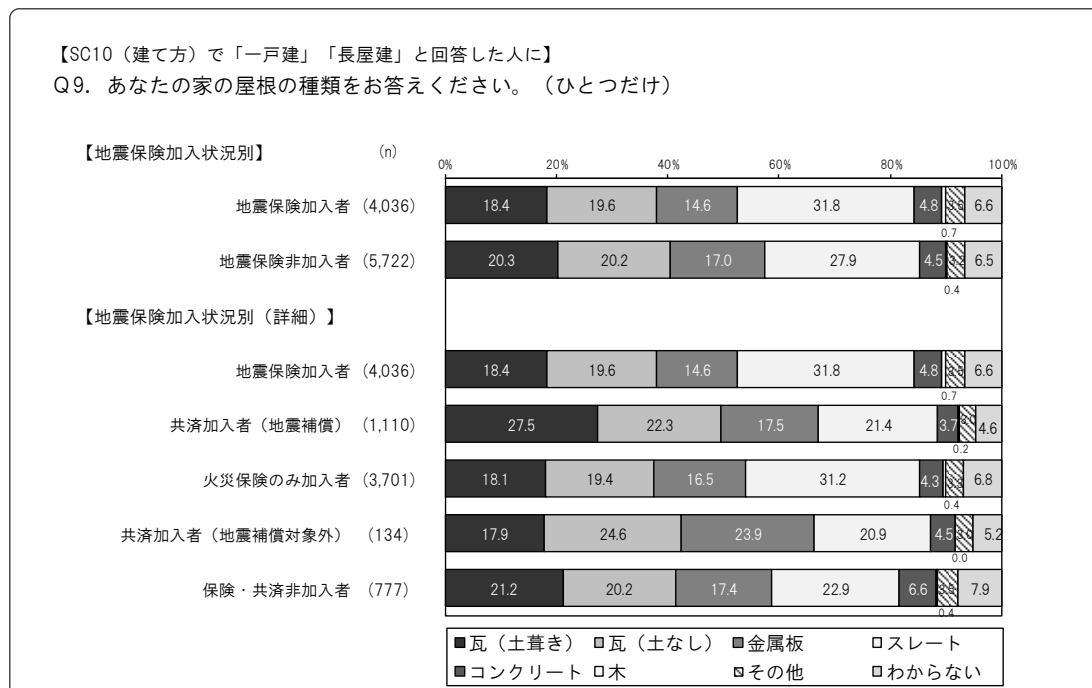
＜回答結果より、地下階数の有無を区分した結果を掲載＞



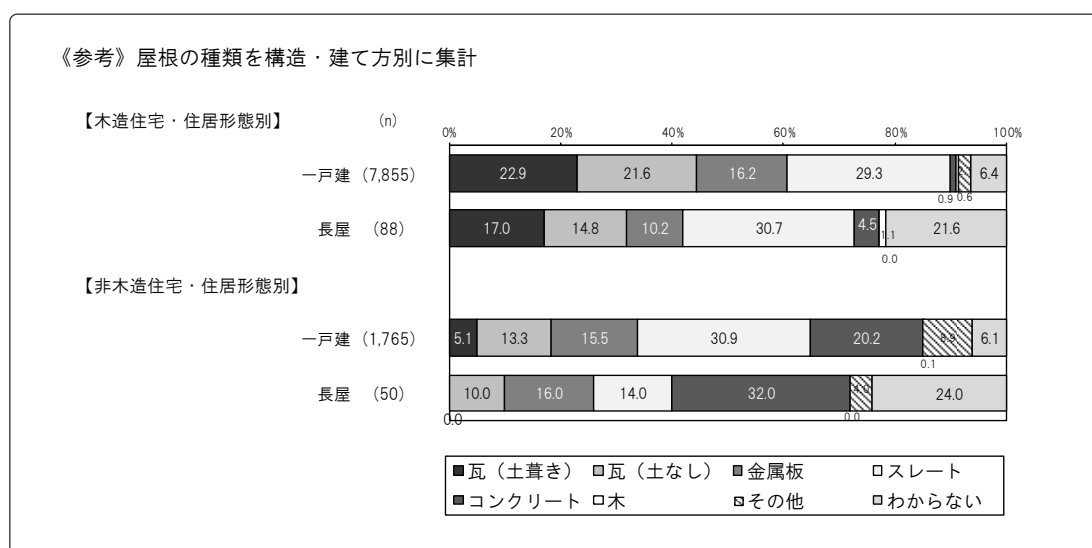
『共同住宅・長屋建』の地階の有無をみると、地震保険加入者では「地階あり」が9.7%であるのに対し、非加入者では5.8%となっており、約4ポイントの差がある。

地震保険非加入者を詳細にみると、共済加入者（地震補償）では「地階あり」が8.8%となっており、他の区分をやや上回る。

(8) 屋根の種類

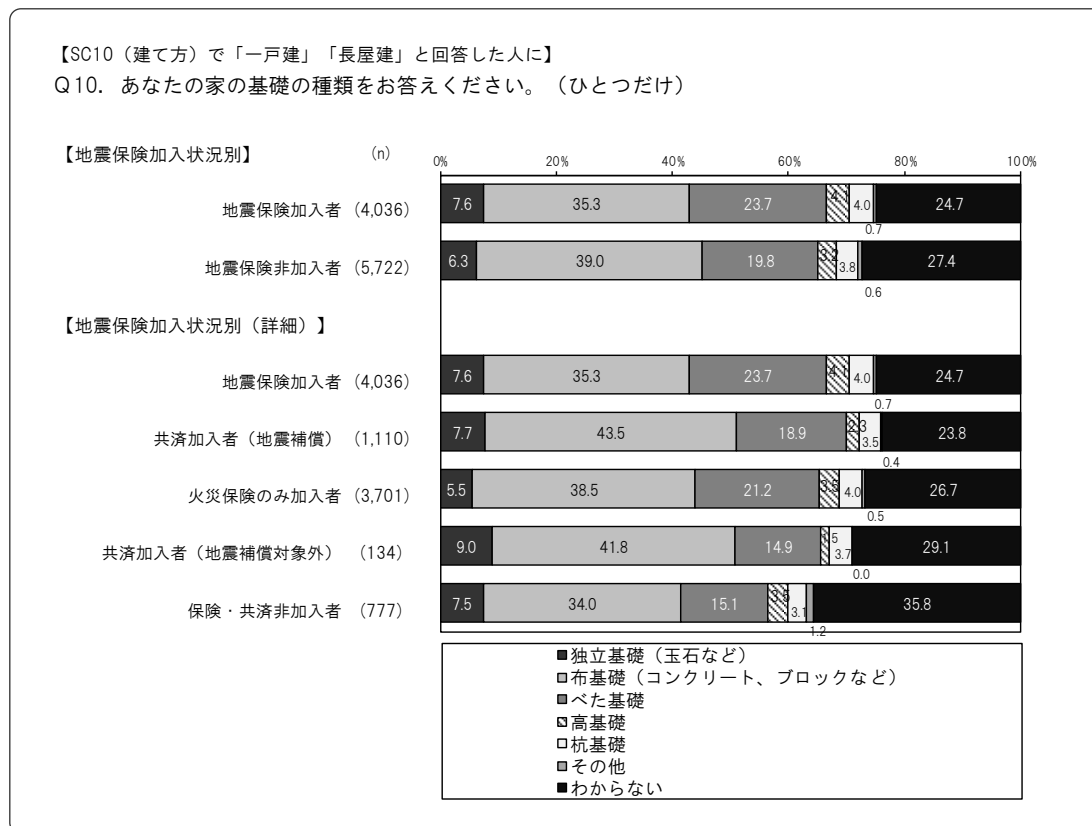


『一戸建』と『長屋建』の屋根の種類は、地震保険加入者・非加入者ともに「スレート」が約3割で最も高く、以下、「瓦（土葺き）」と「瓦（土なし）」がそれぞれ約2割を占める。地震保険非加入者を詳細にみると、共済加入者（地震補償）では「瓦（土葺き）」が27.5%となっており、他の区分を上回る。



《参考》は、構造・建て方別に集計した結果である。木造の一戸建・長屋と非木造の一戸建では「スレート」の比率が約3割と最も高い。一方、非木造の長屋は「コンクリート」が32.0%と最も高い。

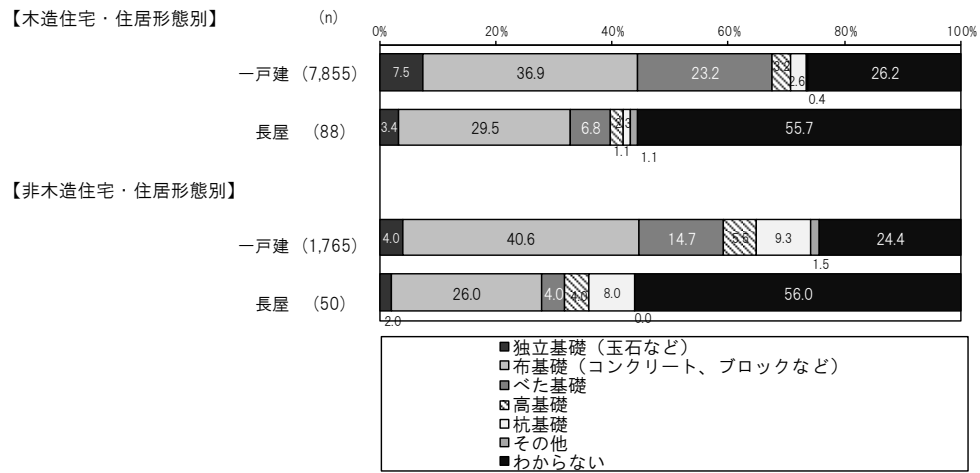
(9) 基礎の種類



『一戸建』と『長屋建』の基礎の種類は、地震保険加入者・非加入者ともに「布基礎（コンクリート、ブロックなど）」の比率が3割台と最も高い。また、「わからない」がいずれの区分においても2割台となっている。

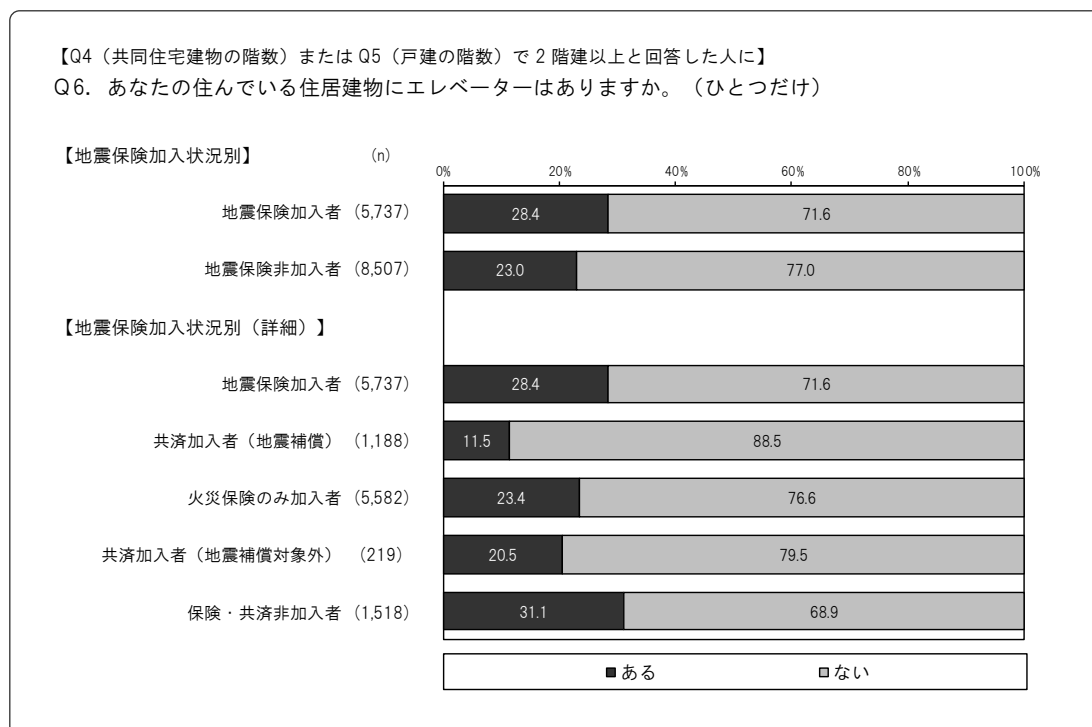
地震保険非加入者を詳細にみると、いずれの区分でも「布基礎（コンクリート、ブロックなど）」が最も多い。

《参考》基礎の種類を構造・建て方別に集計



《参考》は、構造・建て方別に集計した結果である。一戸建ては、木造・非木造ともに「布基礎 (コンクリート、ブロックなど)」の比率が最も多い。長屋は、「わからない」が半数以上を占める。

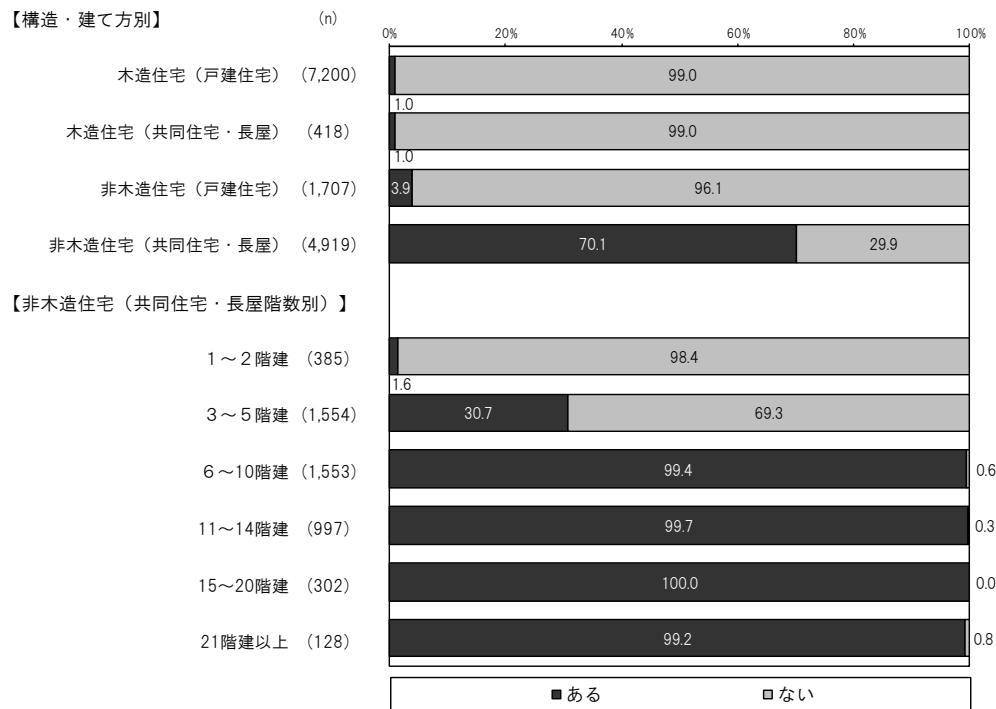
(10) エレベーターの有無



住居建物の地上階数が2階以上の方にエレベーターの有無を質問した。「（エレベーターが）ある」は、地震保険加入者は28.4%、非加入者は23.0%で、約5ポイントの差がある。

地震保険非加入者を詳細にみると、共済加入者（地震補償）は「（エレベーターが）ある」が11.5%で、他の区分を下回る。一方、保険・共済非加入者は「（エレベーターが）ある」が31.1%で、他の区分を上回る。

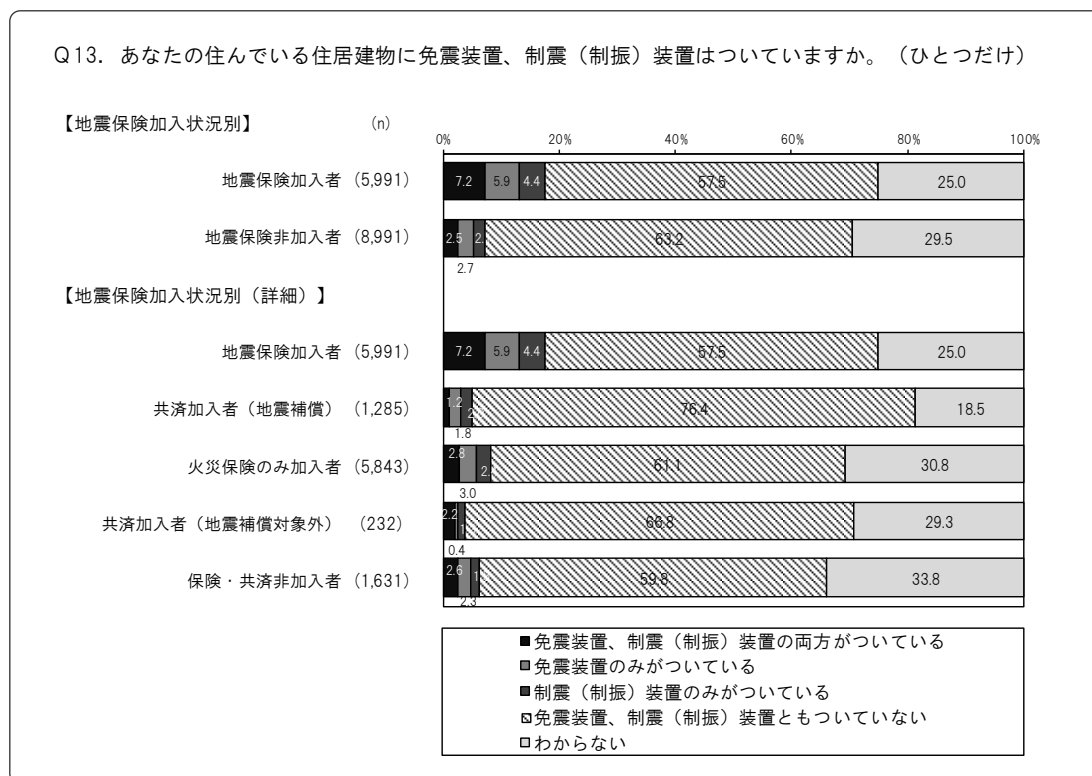
《参考》エレベーターの有無を住居建物の構造・建て方・階数別に集計



《参考》は、住居建物の構造・建て方・階数別に集計した結果である。

非木造住宅の建て方別にみると、「（エレベーターが）ある」の比率は、戸建住宅が3.9%、共同住宅・長屋は70.1%である。また、非木造住宅（共同住宅）について、建物階数別にみると、「（エレベーターが）ある」の比率は、3～5階建は30.7%、6階建て以上はほぼ100%である。

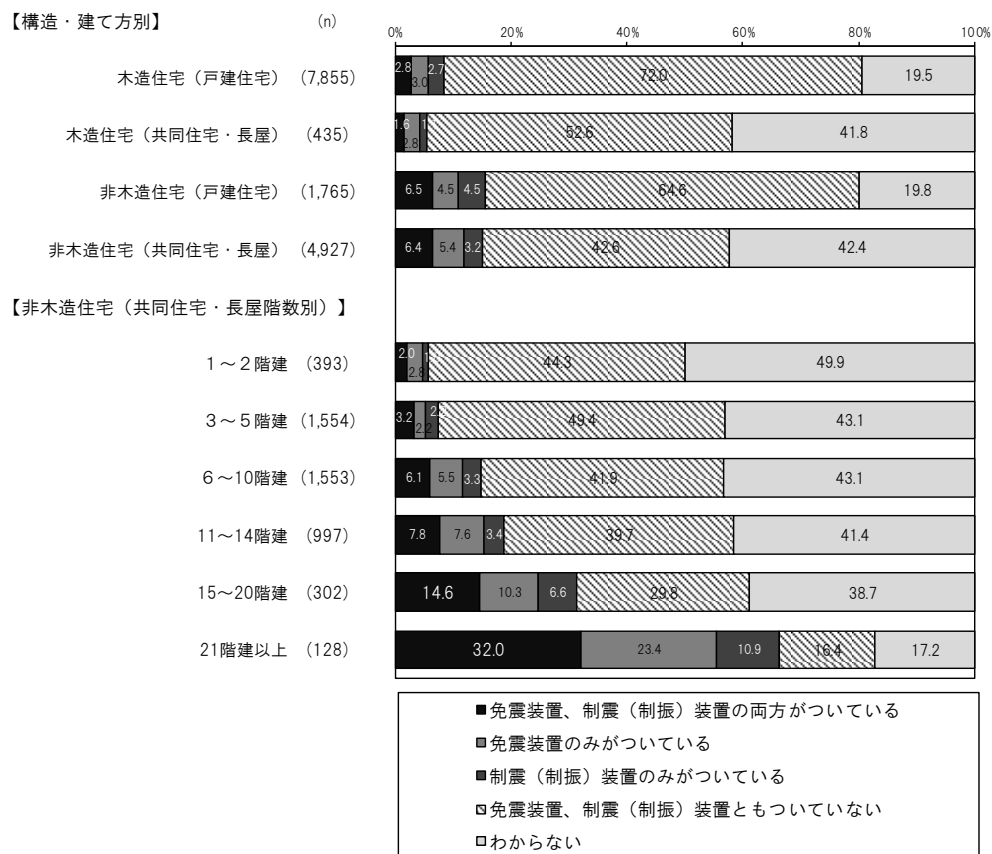
(11) 免震装置、制震（制振）装置の有無



住居建物に免震装置、制震（制振）装置がついているかを質問した。地震保険加入者・非加入者ともに「免震装置、制震（制振）装置ともついでいない」の比率が最も高く、約6割を占める。また、「わからない」がいずれの区分でも2割台を占め、やや多くなっている。「免震装置、制震（制振）装置の両方がついている」の比率は、地震保険加入者が7.2%、非加入者が2.5%で、約5ポイントの差がある。

地震保険非加入者を詳細にみると、いずれの区分においても「免震装置、制震（制振）装置ともついでいない」が最も高い。

《参考》免震装置、制震（制振）装置の有無を構造・建て方・階数別に集計



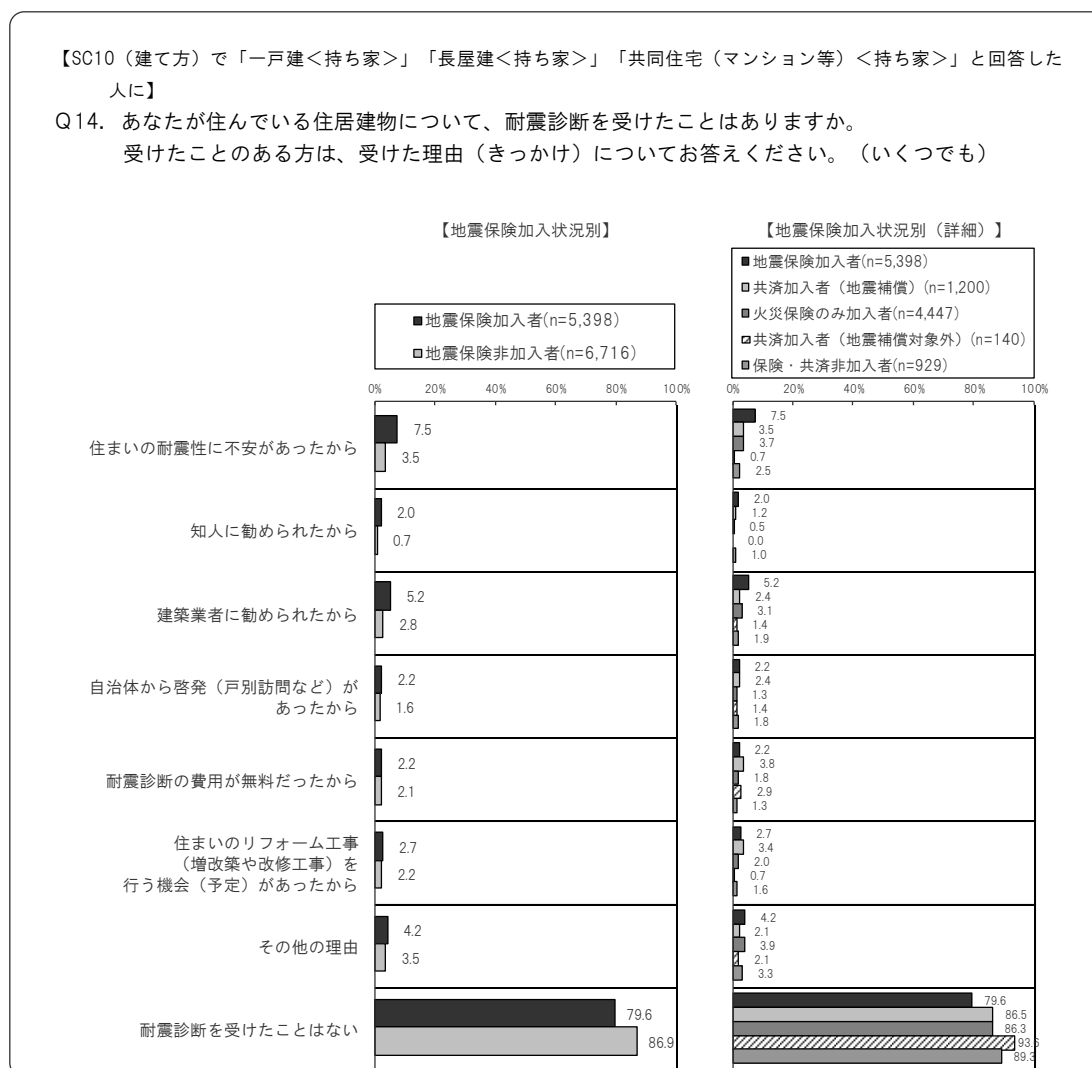
《参考》は、構造・建て方・階数別に集計した結果である。

木造住宅（戸建住宅）では「免震装置、制震（制振）装置ともついていない」の比率が72.0%で、他の区分を大きく上回る。

非木造住宅（共同住宅）について建物階数別にみると、階数が高くなるほど免震装置や制震（制振）装置がついている比率が高くなっており、21階建て以上では、「免震装置、制震（制振）装置の両方がついている」が32.0%を占める。

(12) 耐震診断

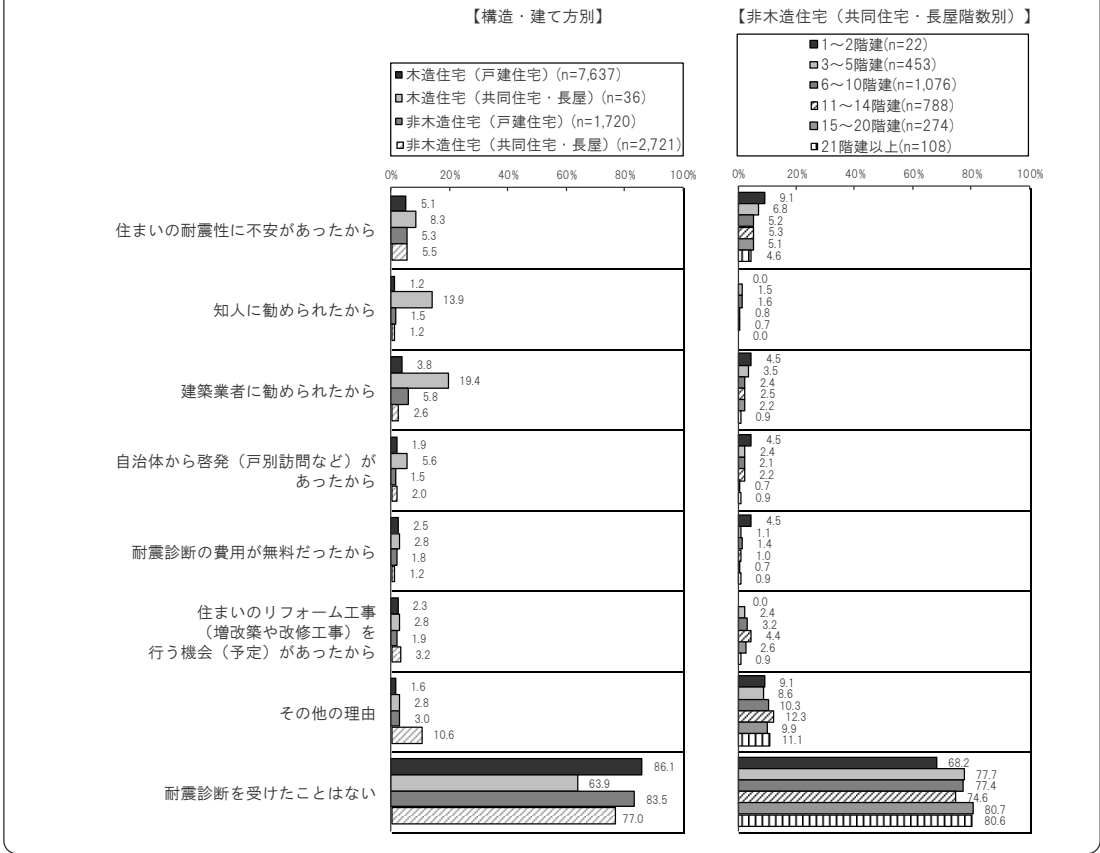
① 耐震診断の受診経験と受診理由



『持ち家』居住者に耐震診断の受診経験・受けた理由（きっかけ）を質問した。地震保険加入者・非加入者ともに「耐震診断を受けたことはない」が最も高く、それぞれ79.6%、86.9%である。耐震診断を受けた理由をみると、地震保険加入者・非加入者ともに「住まいの耐震性に不安があったから」が最も高い。

地震保険非加入者を詳細にみると、いずれの区分においても「耐震診断を受けたことはない」が最も高い。

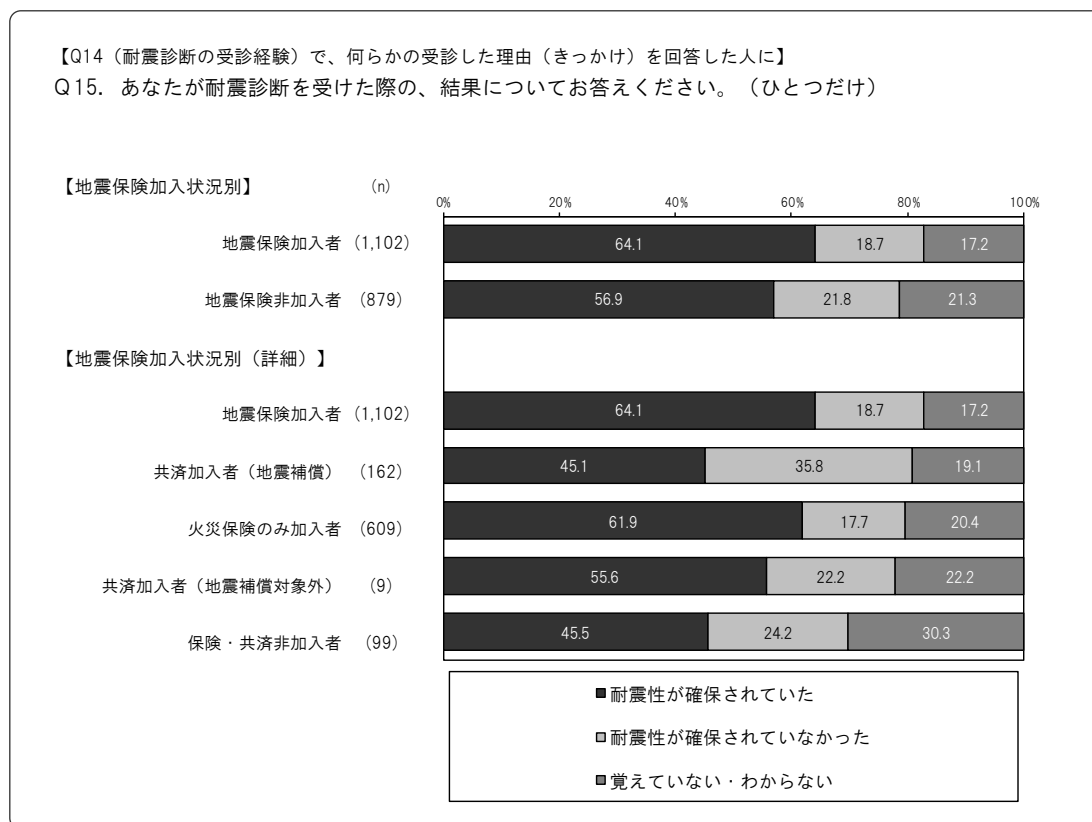
《参考》耐震診断の受診経験を住居建物の構造・建て方・階数別に集計



《参考》は、構造・建て方・階数別に集計した結果である。木造住宅（戸建住宅）では「耐震診断を受けたことはない」の比率が86.1%で、他の区分をやや上回る。

非木造住宅（共同住宅）について建物階数別にみると、1～2階建の「耐震診断を受けたことはない」の比率は、3階建以上よりもやや低い。

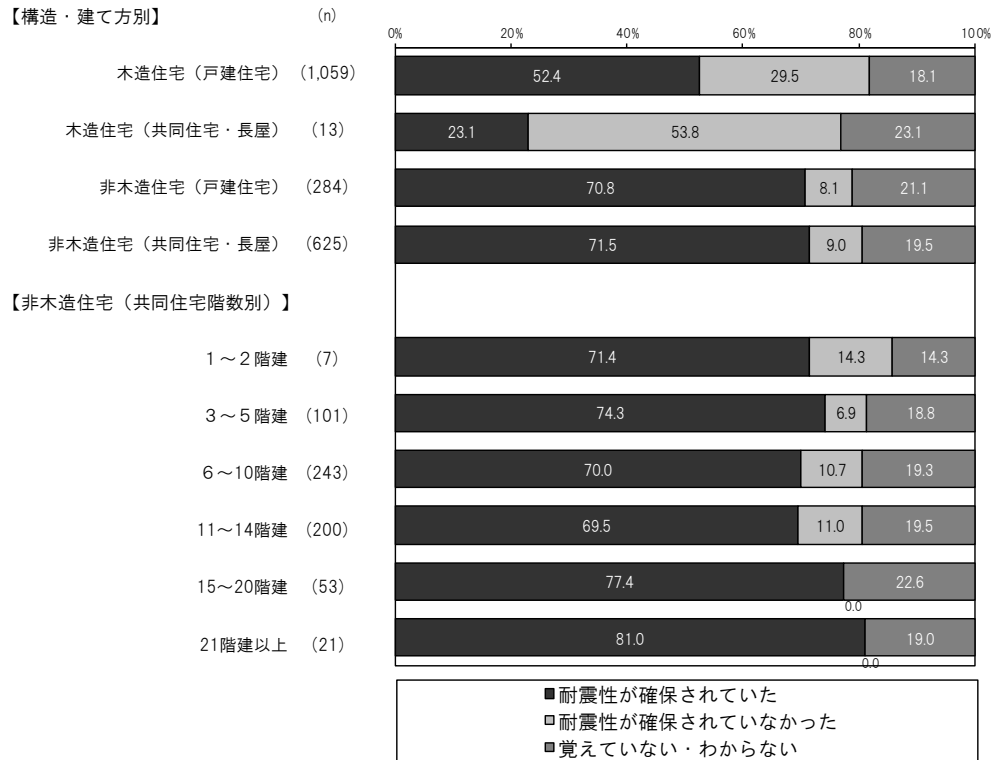
②耐震診断の結果



耐震診断を受けた方にその結果を質問した。地震保険加入者・非加入者ともに「耐震性が確保されていた」が6割前後を占める一方で、「耐震性が確保されていなかった」も2割前後存在する。また、「覚えていない・わからない」も2割前後存在する。

地震保険非加入者を詳細にみると、火災保険のみ加入者は「耐震性が確保されていた」が61.9%で、他の区分を上回る。

《参考》耐震診断の結果を住居建物の構造・建て方・階数別に集計



《参考》は、構造・建て方・階数別に集計した結果である。

木造住宅（戸建住宅）では「耐震性が確保されていた」が52.4%であるのに対し、非木造住宅（戸建住宅）では70.8%となっており、約18ポイントの差がある。

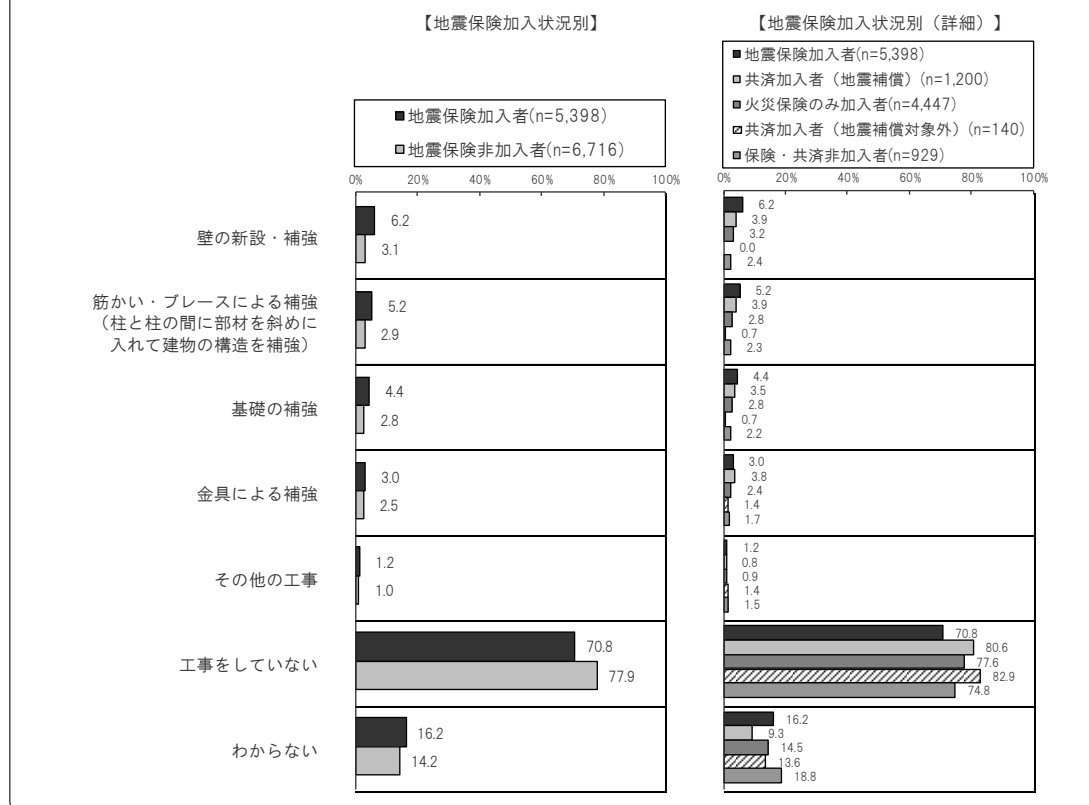
非木造住宅（共同住宅）について建物階数別にみると、15建以上では「耐震性が確保されていた」が約8割を占め、他の区分をやや上回る。

(13) 耐震改修工事・耐震補強工事

①耐震改修工事・耐震補強工事の施工有無

【SC10（建て方）で「一戸建<持ち家>」「長屋建<持ち家>」「共同住宅（マンション等）<持ち家>」と回答した人に】

Q16. あなたの住んでいる住居建物は耐震改修工事・耐震補強工事を行いましたか。
行った場合は工事内容について、該当する項目すべてをお選びください。（いくつでも）

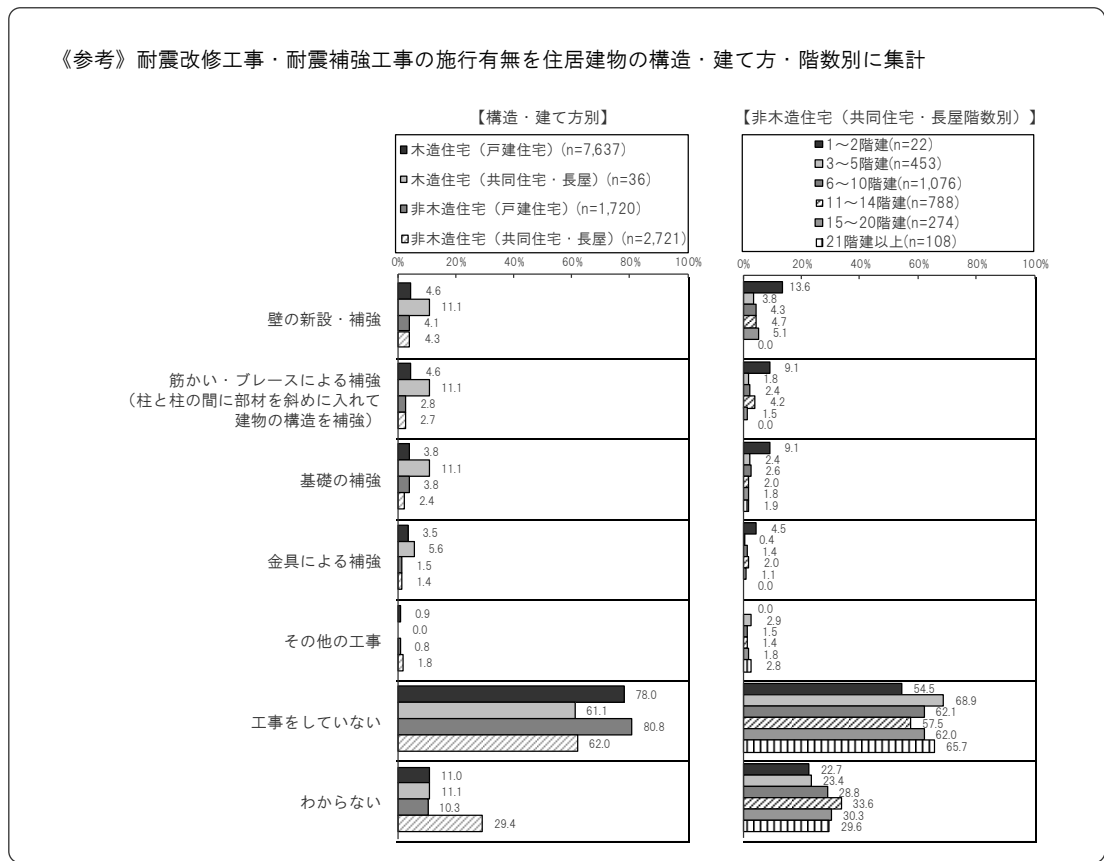


『持ち家』居住者に耐震改修工事・耐震補強工事の施工状況を質問した。「工事をしていない」の比率は、地震保険加入者が70.8%、地震保険非加入者が77.9%で、約7ポイント差がある。なお、15%の前後の人が「わからない」と回答している。

耐震改修工事・耐震補強工事の内容をみると、地震保険加入者・非加入者ともに「壁の新設・補強」が最も高い。

地震保険非加入者を詳細にみると、共済加入者（地震補償対象外）では「工事をしていない」が82.9%で、他の区分をやや上回る。

《参考》耐震改修工事・耐震補強工事の施行有無を住居建物の構造・建て方・階数別に集計



《参考》は、構造・建て方・階数別に集計した結果である。

戸建住宅では構造を問わず「工事をしていない」の比率が約8割となっており、共同住宅・長屋を上回る。また、「わからない」の比率は、非木造住宅（共同住宅・長屋）が他の区分よりも高い。

非木造住宅（共同住宅）について建物階数別にみても、回答結果に大きな差はない。

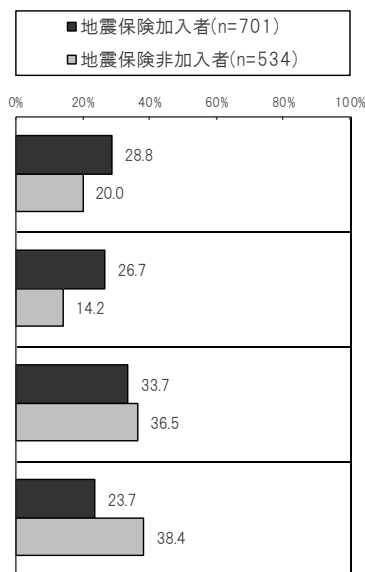
②耐震改修工事・耐震補強工事の施工理由

【Q16（耐震改修工事・耐震補強工事の実施有無）で、「壁の新設・補強」「筋かい・ブレースによる補強」「基礎の補強」

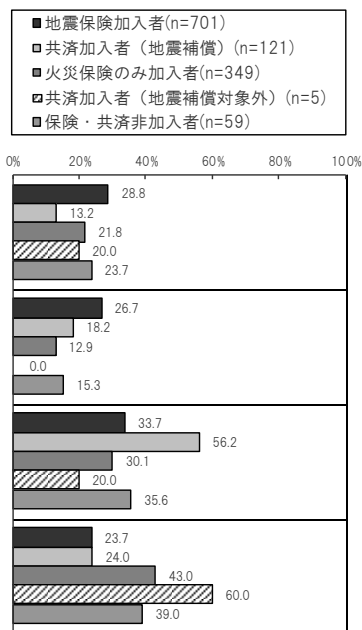
「金具による補強」「その他の工事」と回答した人に】

Q17. 耐震改修工事・耐震補強工事をした理由（きっかけ）は何ですか。（いくつでも）

【地震保険加入状況別】



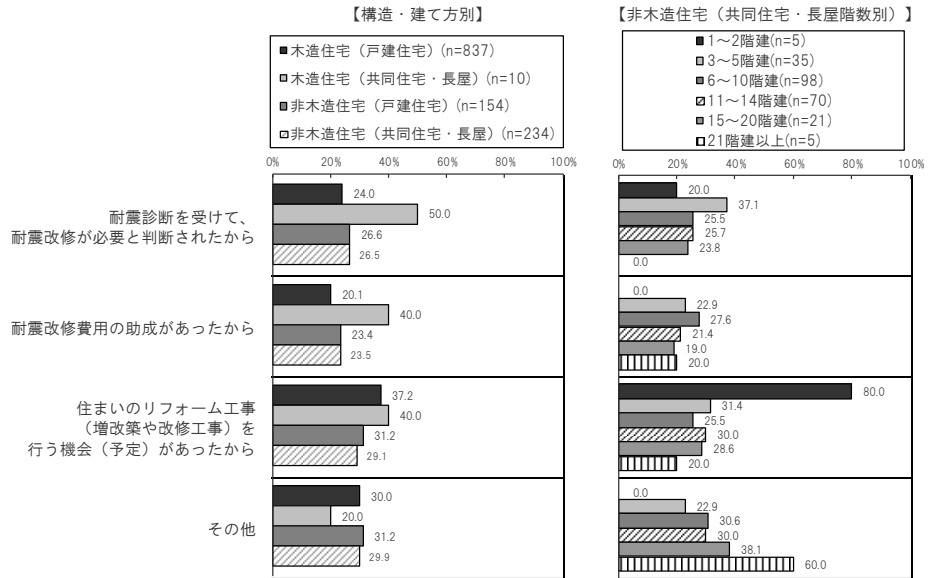
【地震保険加入状況別（詳細）】



耐震改修工事・耐震補強工事を施工した方に実施理由（きっかけ）を質問した。地震保険加入者では「住まいのリフォーム工事（増改築や改修工事）を行う機会（予定）があったから」が最も高く33.7%となっている。一方、地震保険非加入者では「その他」が38.4%と最も高い。

地震保険非加入者を詳細にみると、共済加入者（地震補償）では「住まいのリフォーム工事（増改築や改修工事）を行う機会（予定）があったから」が56.2%となっており、他の区分を大きく上回る。

《参考》耐震改修工事・耐震補強工事の施工理由を住居建物の構造・建て方・階数別に集計



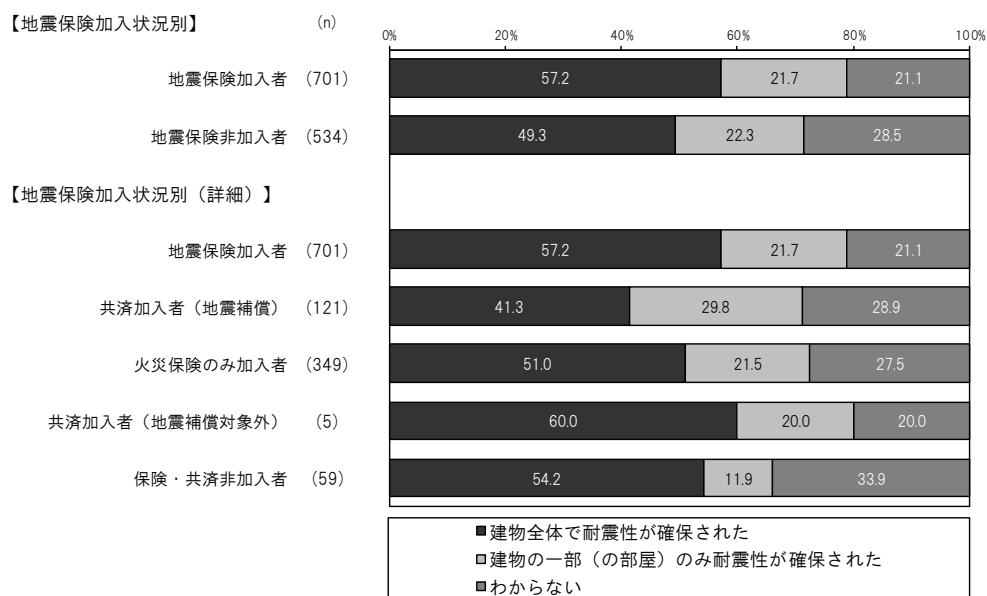
《参考》は、構造・建て方・階数別に集計した結果である。サンプル数が少ない区分が多い点に留意する必要がある。

③耐震改修工事・耐震補強工事後の耐震性

【Q16（耐震改修工事・耐震補強工事の実施有無）で、「壁の新設・補強」「筋かい・ブレースによる補強」「基礎の補強」

「金具による補強」「その他の工事」と回答した人に】

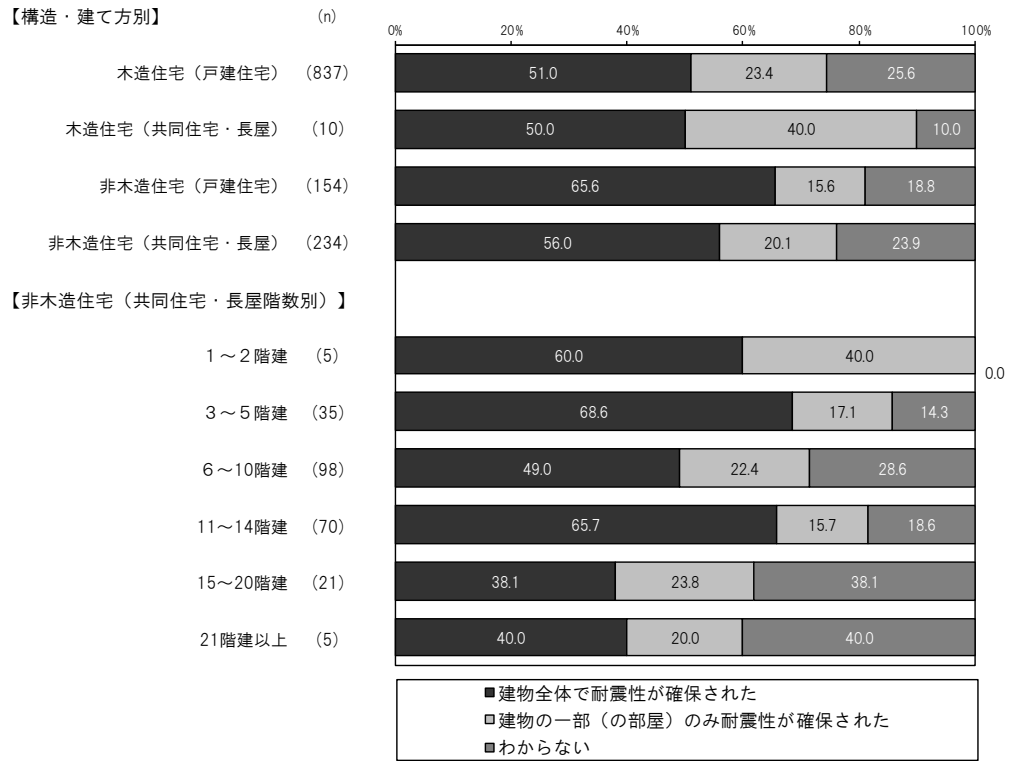
Q18. 耐震改修工事・耐震補強工事をした結果、住居建物の耐震性は確保されましたか。（ひとつだけ）



耐震改修工事・耐震補強工事を施工した方に、施工後の耐震性を質問した。「建物全体で耐震性が確保された」の比率は、地震保険加入者が57.2%、非加入者が49.3%である。いずれの区分においても「わからない」が2割以上存在する。

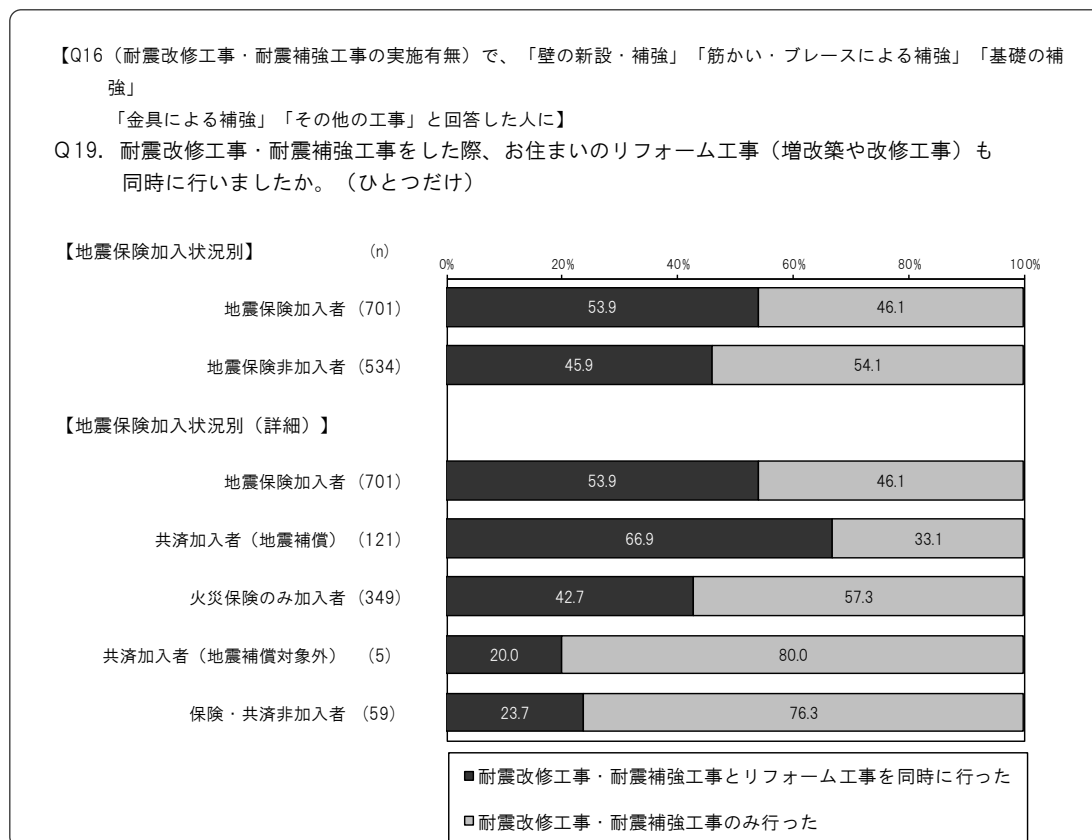
地震保険非加入者を詳細にみると、保険・共済未加入者で「わからない」の比率がやや高い。

《参考》耐震改修工事・耐震補強工事後の住居建物の耐震性を構造・建て方・階数別に集計



《参考》は、構造・建て方・階数別に集計した結果である。サンプル数が少ない区分が多い点に留意する必要がある。

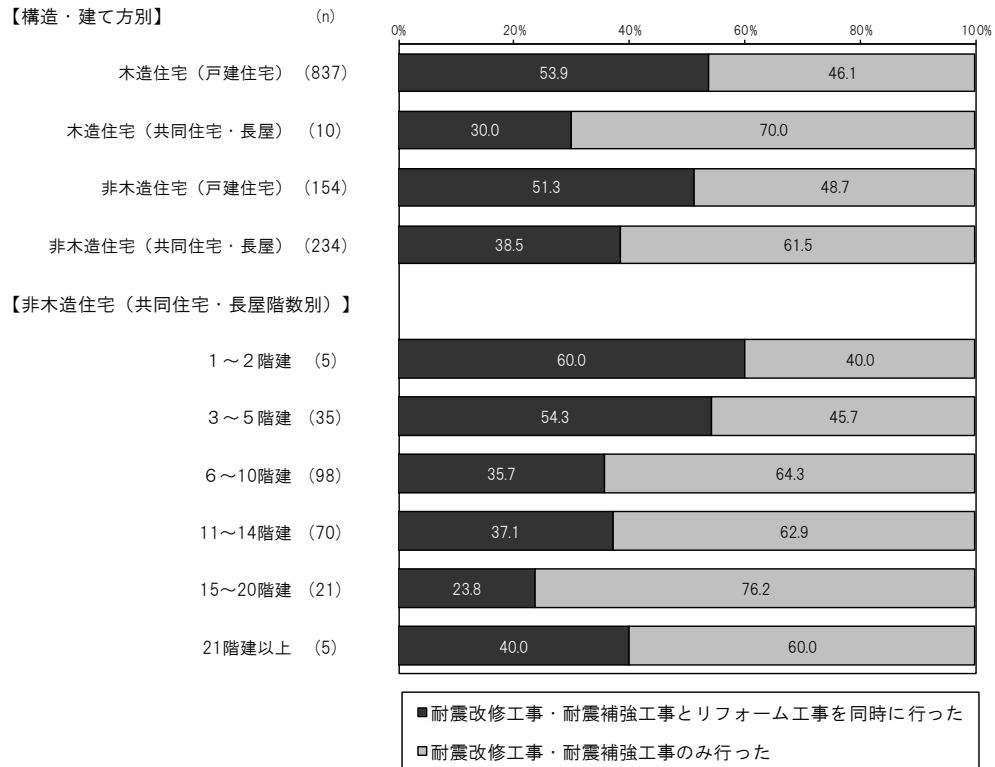
④耐震改修工事・耐震補強工事時のリフォーム工事実施有無



耐震改修工事・耐震補強工事を施工した方に、リフォーム工事を同時に実施したかを質問した。「耐震改修工事・耐震補強工事とリフォーム工事を同時に行った」の比率は、地震保険加入者が53.9%、非加入者が45.9%である。

地震保険非加入者を詳細にみると、共済加入者（地震補償）では「耐震改修工事・耐震補強工事とリフォーム工事を同時に行った」が66.9%で、他の区分を上回る。

《参考》耐震改修工事・耐震補強工事の際のリフォーム工事実施有無を
住居建物の構造・建て方・階数別に集計

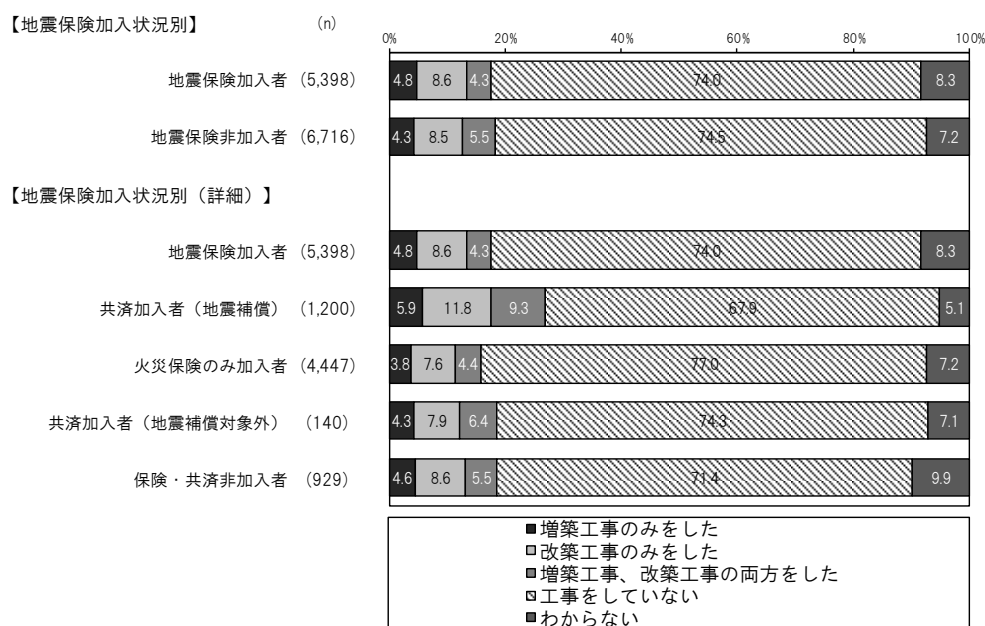


《参考》は、構造・建て方・階数別に集計した結果である。サンプル数が少ない区分が多い点に留意する必要がある。

(14) 増築工事・改築工事

【SC10（建て方）で「一戸建く持ち家」「長屋建く持ち家」「共同住宅（マンション等）く持ち家」と回答した人に】

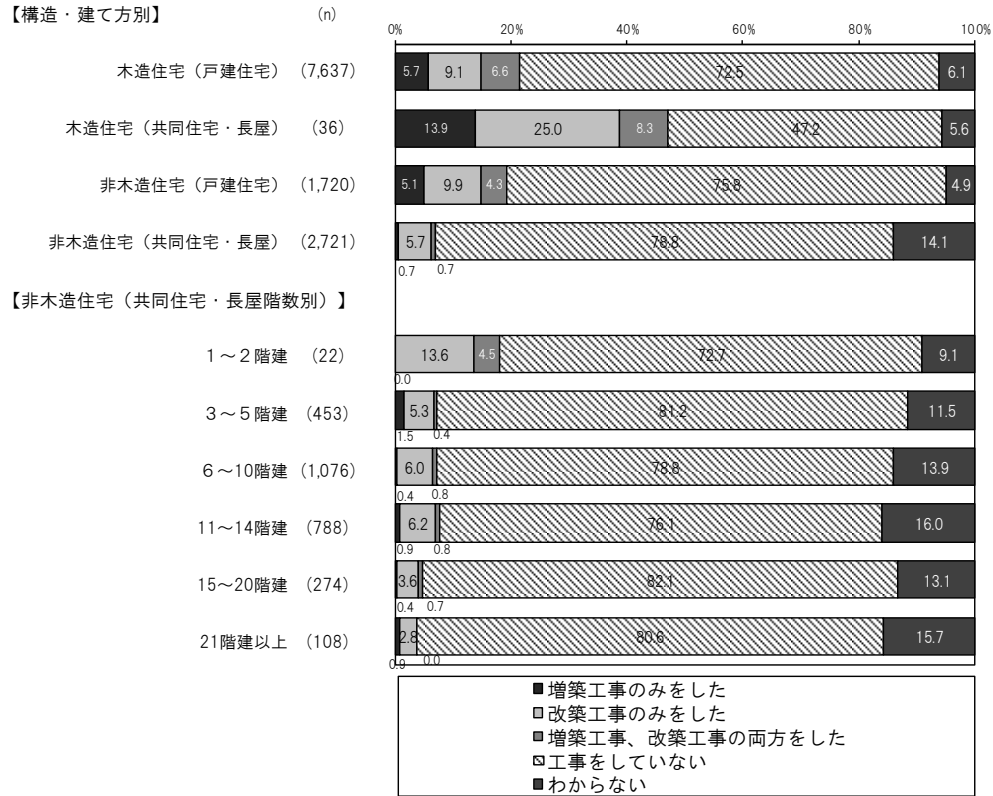
Q20. あなたの住んでいる住居建物は増築工事や改築工事を行いましたか。
ただし、耐震改修工事・耐震補強工事を除いてお答えください。（ひとつだけ）



『持ち家』の居住者に、住居建物の増築工事・改築工事の実施状況を質問した。地震保険加入者・非加入者ともに「工事をしていない」が最も高く、地震保険加入者は74.0%、非加入者は74.5%となっている。いずれの区分においても「改築工事のみをした」が次いでいるが、1割を下回る。

地震保険非加入者を詳細にみると、共済加入者（地震補償）では「改修工事のみをした」が11.8%となっており、他の区分をやや上回る。

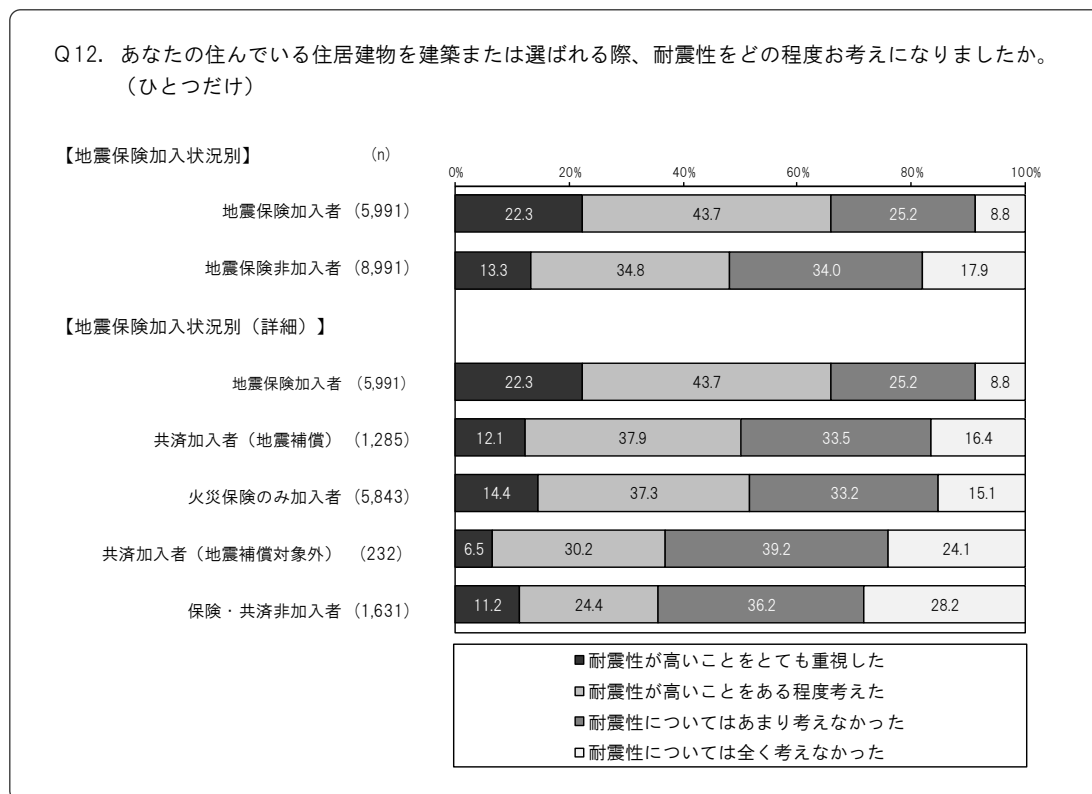
《参考》増築工事・改築工事の実施有無を住居建物の構造・建て方・階数別に集計



《参考》は、構造・建て方・階数別に集計した結果である。非木造住宅（共同住宅・長屋）は「工事をしていない」が78.8%となっており、他の区分をやや上回る。

非木造住宅（共同住宅）について建物階数別にみると、いずれの区分においても「工事をしていない」が7割以上を占める。

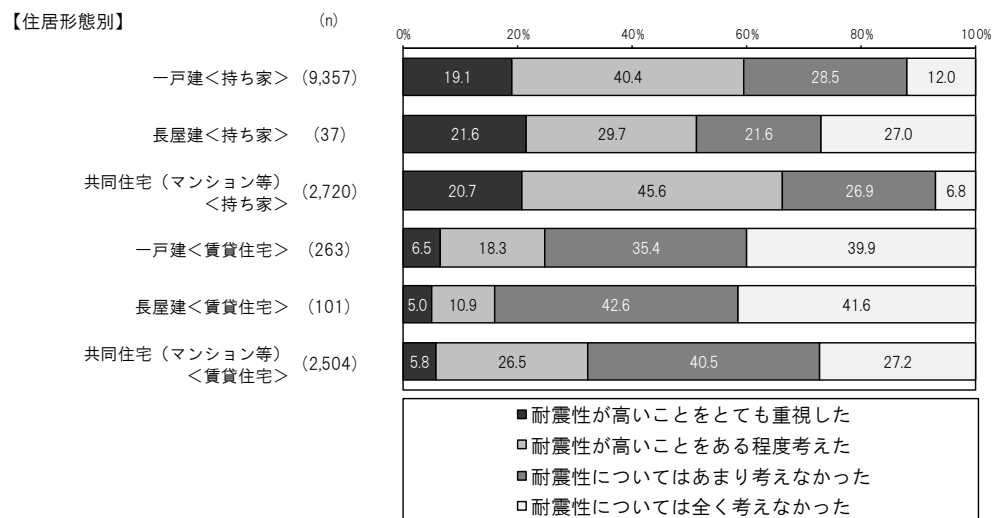
(15) 住居建物の建築・選定時の耐震性の考慮



住居建物を建築・選定する際に耐震性をどの程度考慮したかを質問した。地震保険加入者では「耐震性が高いことをとても重視した」と「耐震性が高いことをある程度考えた」を合わせた『耐震性を考慮した（計）』が66.0%（=22.3%+43.7%）であるのに対し、非加入者では48.1%（=13.3%+34.8%）となっており、約18ポイントの差がある。

地震保険非加入者を詳細にみると、保険・共済非加入者では「耐震性については全く考えなかった」が28.2%となっており、他の区分を上回る。

《参考》住居建物選定時の耐震性の考慮を建て方別に集計



《参考》は、建て方別に集計した結果である。

『耐震性を考慮した(計)』の比率は、共同住宅(マンション等)<持ち家>が66.3% (=20.7%+45.6%)と最も高く、以下、一戸建<持ち家>(59.5%=19.1%+40.4%)、長屋建<持ち家>(51.3%=21.6%+29.7%)の順となっており、持ち家においては、いずれも半数を超えている。

一方、長屋建<賃貸住宅>は15.9%(=5.0%+10.9%)と最も低く、一戸建<賃貸住宅>(24.8%=6.5%+18.3%)、共同住宅(マンション等)<賃貸住宅>(32.3%=5.8%+26.5%)と持ち家を大きく下回る。